

関連資料 「吹田市子供の生活状況調査」の結果概要

1 調査概要

(1)調査目的

吹田市における子供の貧困対策を推進し、貧困の連鎖を防ぐための実効性の高い施策を展開するための「第2次吹田市子供の夢・未来応援施策基本方針」を策定するにあたり、本市における子供の生活状況や貧困の実態を包括的に把握し、計画策定の基礎資料とするため調査を実施しました。

(2)調査設計

①調査対象	・吹田市内に居住する小学5年生(2011年4月2日～2012年4月1日生まれ)の児童全数とその保護者 ・吹田市内に居住する中学2年生(2008年4月2日～2009年4月1日生まれ)の生徒全数とその保護者 ・吹田市内に居住する5歳児(2016年4月2日～2017年4月1日生まれ)を小学校区、性別で層化抽出した1,000人の保護者
②調査方法	郵送により調査票を配付、郵送またはインターネットにより回答
③調査期間	令和4年6月20日～7月6日 (回答の集計は、令和4年7月26日到着分までを含む。)

(3)回収結果

調査対象	配布数	回収数	有効回収数			有効回収率
				郵送	インターネット	
5歳児保護者	1,000件	607件	607件	329件	278件	60.7%
小学5年生保護者	3,683件	1,791件	1,791件	1,233件	558件	48.6%
中学2年生保護者	3,505件	1,475件	1,471件	968件	503件	42.0%
小学5年生児童	3,683件	1,744件	1,743件	1,262件	481件	47.3%
中学2年生生徒	3,505件	1,398件	1,395件	975件	420件	39.8%

(4)調査結果の見方

- ・集計結果は、すべて小数点以下第2位を四捨五入しており、比率の合計が100%とならないことがあります。
- ・複数回答の質問では比率の合計が100%とならない場合があります。
- ・グラフの中の「n=***」は、集計母数を表しています。

2 困窮度について

今回の調査において世帯所得をたずねているが、この回答のみで世帯の困窮の状態を測ることはできません。実際の生活上の体験や困りごとを把握するため、多面的に貧困を測る指標として、等価世帯収入を用いています。

世帯の所得はその世帯の世帯人員数に影響されるので、世帯人員数で調整する必要があります。最も簡単なのは「世帯の所得÷世帯人員数」とすることですが、生活水準を考えた場合、世帯人員数が少ない方が、生活コストが割高になることを考慮する必要があり、このため、世帯人員数の違いを調整するにあたって「世帯人員数の平方根」を用いています。

国民生活基礎調査における相対的貧困率は、一定基準(貧困線)を下回る等価可処分所得しか得ていない者の割合をいいます。貧困線とは、等価可処分所得(世帯の可処分所得(収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入)を世帯人員の平方根で割って調整した所得)の中央値の半分の額をいいます。

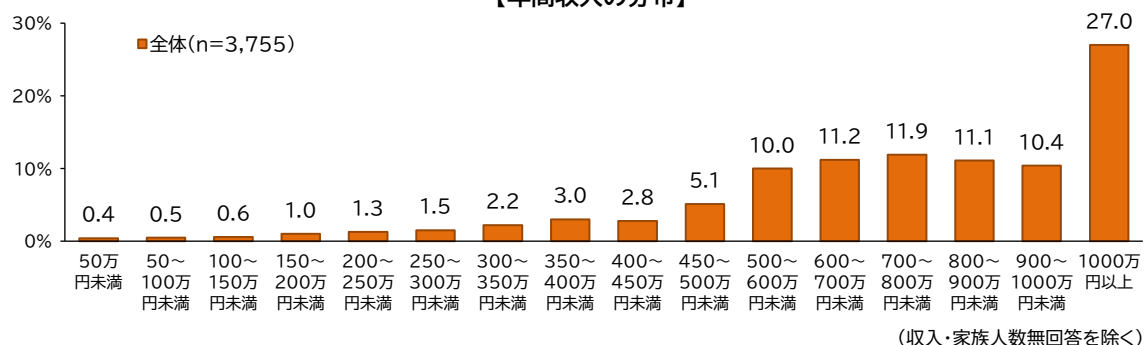
令和3年度に内閣府が実施した「子供の生活状況調査」では、世帯の年間収入(税込)を世帯人員の平方根で割った値を「等価世帯収入」として算出し、世帯収入別の分析を行っています。

今回調査では内閣府調査と同様の方法で「等価世帯収入」を算出し、「中央値以上」「中央値の2分の1以上中央値未満」「中央値の2分の1未満」の3区分に分類しました。

【等価世帯収入の算出方法】

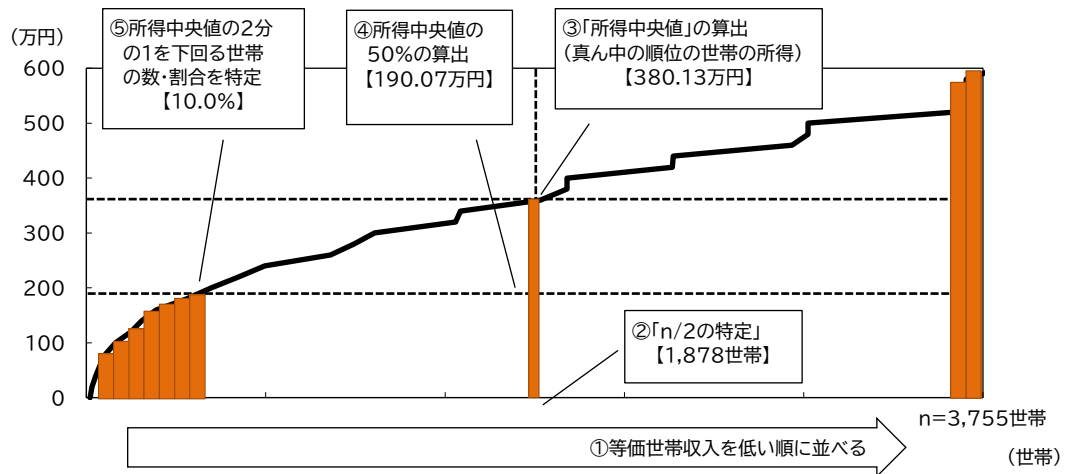
- 年間収入に関する回答の各選択肢の中央値をその世帯の収入の値とします(例えば、「50万円未満」であれば25万円、「50～100万円未満」であれば75万円とします。なお、「1000万円以上」は1050万円とします。)
- 上記の値を家族の人数の平方根をとったもので割ります。
- 上記の方法で算出した値(等価世帯収入)の中央値を求め、さらに、その2分の1未満であるか否かで分類します。

【年間収入の分布】



今回調査における等価世帯収入の中央値は 380.13 万円、中央値の2分の1未満の世帯は 10.0%でした。なお、令和 3 年度に内閣府が実施した「子供の生活状況調査」における等価世帯所得が中央値の2分の1未満の世帯は 12.9%でした。

【等価世帯収入の区分分けのイメージ】



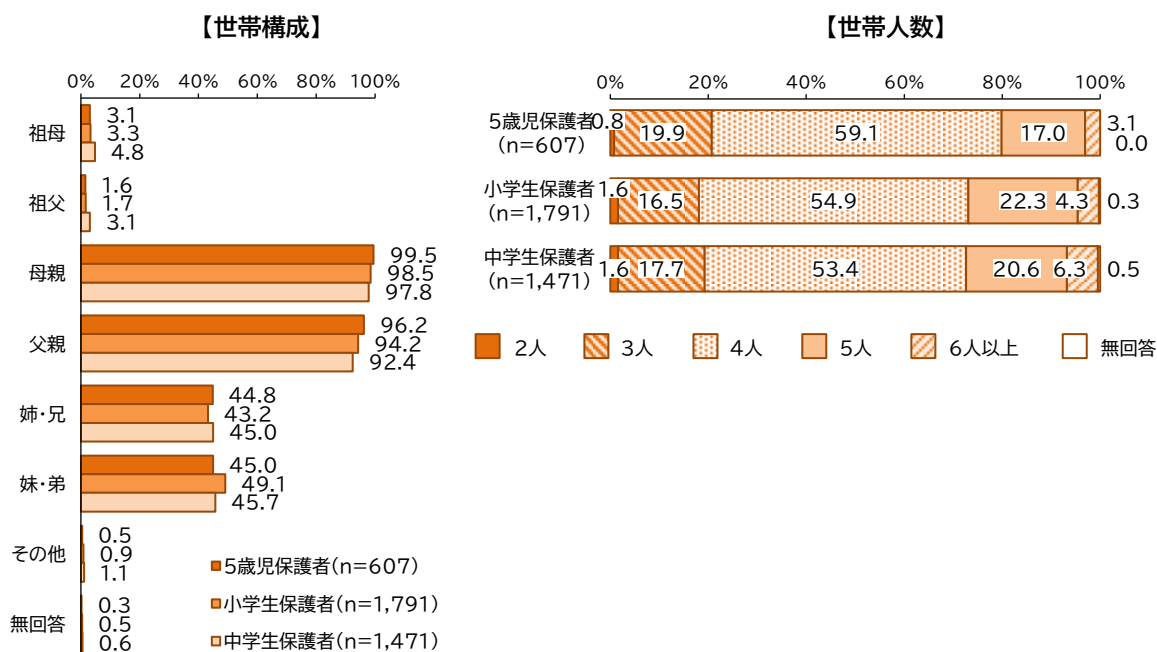
3 調査結果による本市の側面別状況

(1)世帯の状況

(保護者)問 3 世帯構成と世帯人数

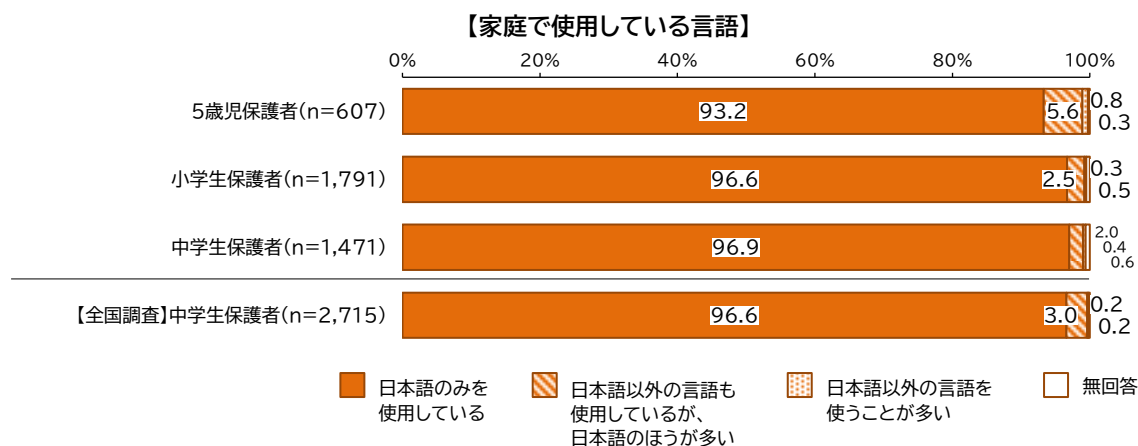
世帯構成を見ると、すべての保護者層で「母親」と「父親」が9割台、「姉・兄」と「妹・弟」が4割台となっています。

世帯人数を見ると、すべての保護者層で「4人」の割合が5割台で最も高く、次いで5歳児保護者は「3人」、小学生保護者、中学生保護者は「5人」となっています。



(保護者)問 8 家庭で使用している言語

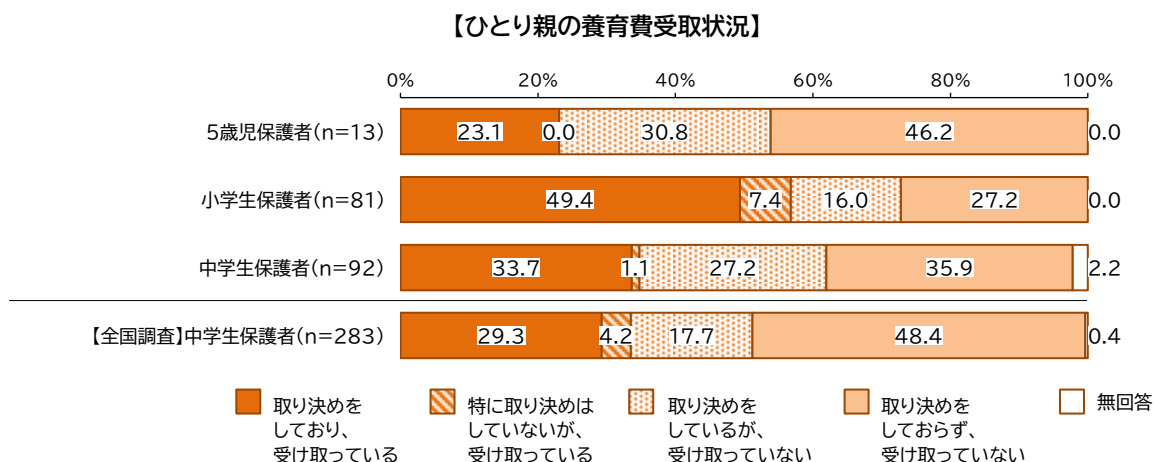
家庭で使用している言語を見ると、すべての保護者層で「日本語のみを使用している」が9割以上で最も高くなっています。また、「日本語以外の言語も使用しているが、日本語のほうが多い」は、5歳児保護者で5.6%となっています。



(2)雇用・経済面

(保護者)問 7 ひとり親の養育費受取状況

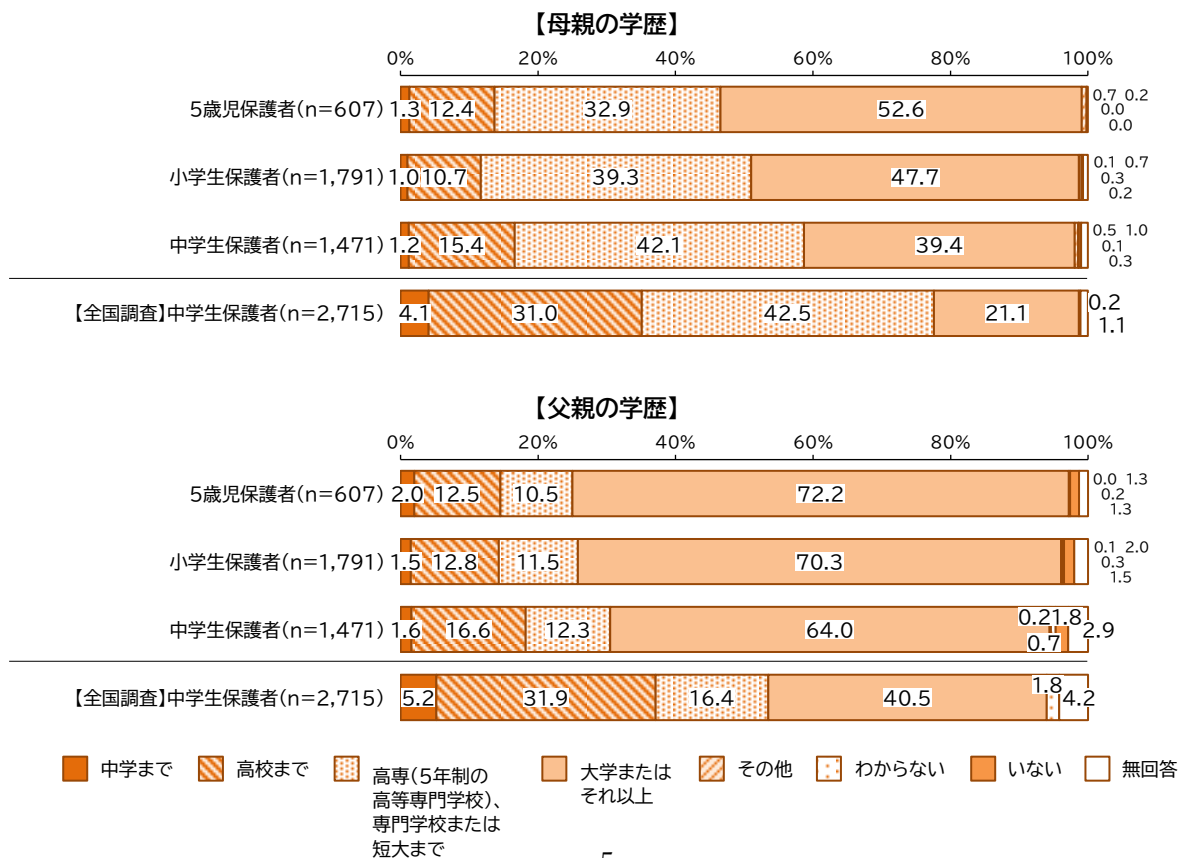
ひとり親の養育費受取状況を見ると、5歳児保護者と中学生保護者は「取り決めをしておらず、受け取っていない」、小学生保護者は「取り決めをしており、受け取っている」が最も高くなっています。



(保護者)問 9 親の学歴

親の学歴を見ると、母親は子供の年齢が下がるほど「大学またはそれ以上」の割合が高くなり、5歳児保護者で52.6%となっています。

父親は、すべての保護者層で「大学またはそれ以上」が6～7割台で最も高く、次いで「高校まで」となっています。

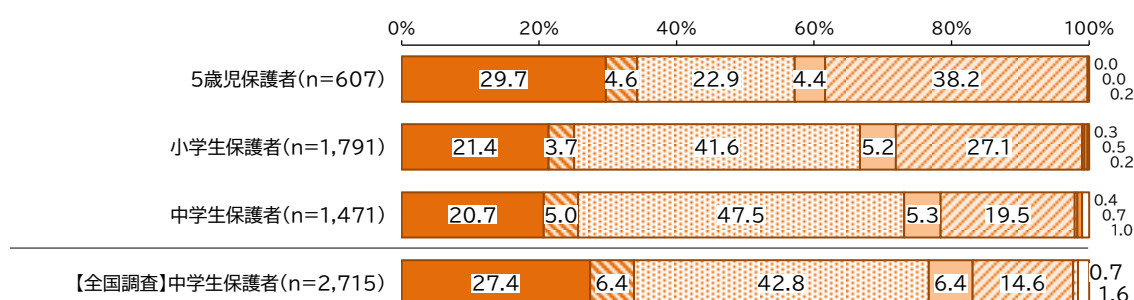


(保護者)問 10 親の雇用形態

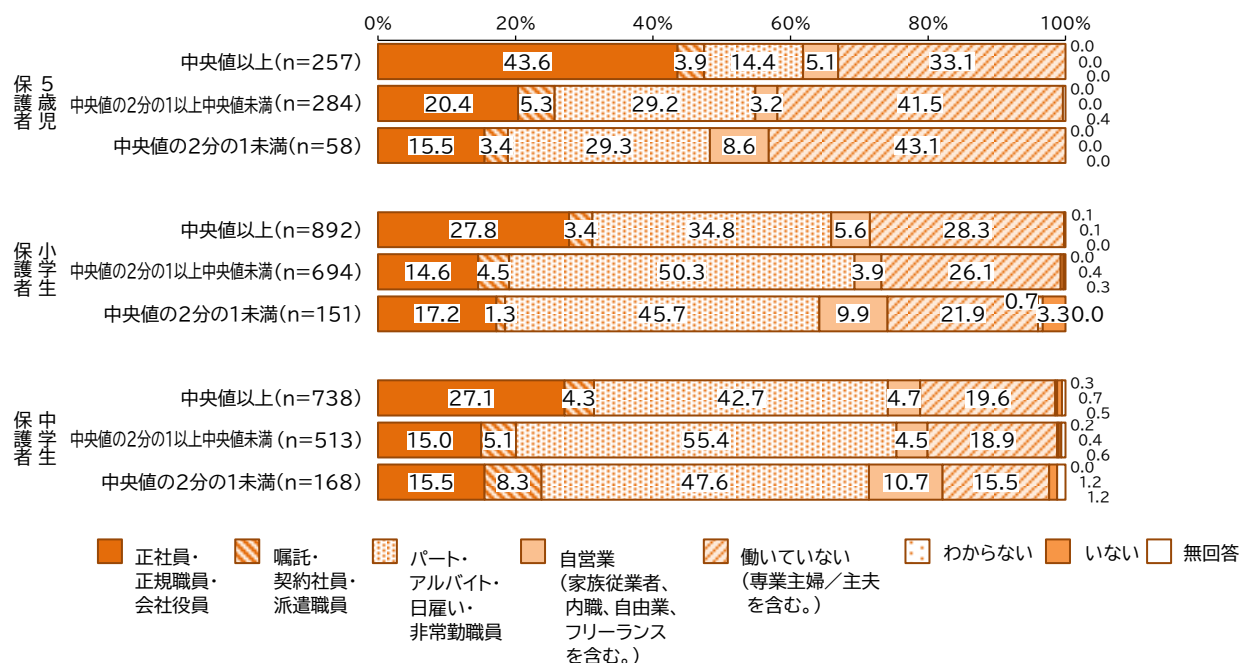
親の学歴を見ると、母親は5歳児保護者で「働いていない(専業主婦／主夫を含む。)」、小学生保護者、中学生保護者で「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が最も高くなっています。子供の年齢が上がるほど、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」の割合が高くなり、中学生保護者で47.5%となっています。等価世帯収入別に見ると、所得が高く、また、子供の年齢が低くなるにつれて、「正社員・正規職員・会社役員」の割合が高くなっています。

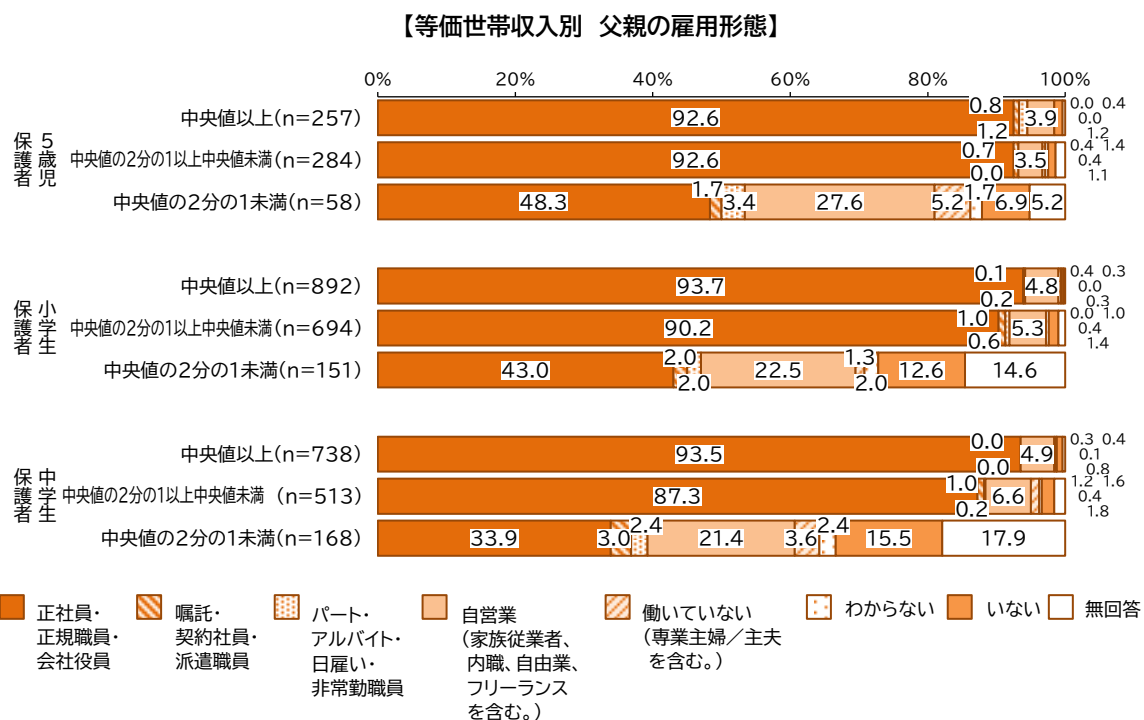
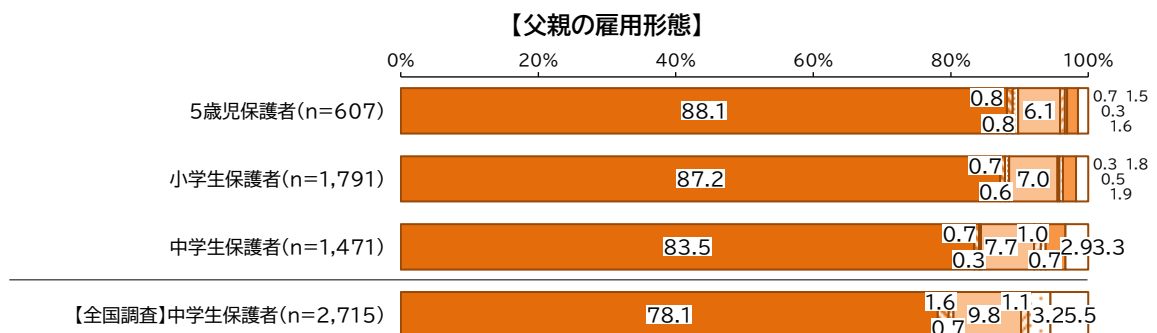
父親は、すべての保護者層で「正社員・正規職員・会社役員」が8割台で最も高くなっていますが、等価世帯収入別に見ると、中央値の2分の1未満の世帯では「正社員・正規職員・会社役員」は5割未満となっています。

【母親の雇用形態】



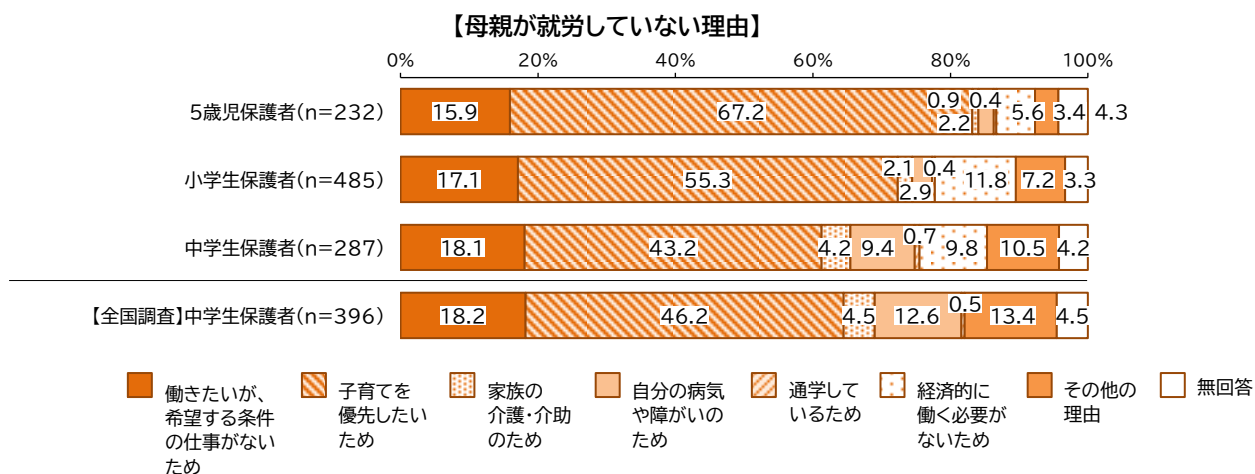
【等価世帯収入別 母親の雇用形態】





(保護者)問 11 就労していない理由

母親が就労していない理由を見ると、子供の年齢が下がるほど「子育てを優先したいため」が高くなり、5歳児保護者で 67.2%となっています。また、すべての保護者層で「働きたいが、希望する条件の仕事がないため」が1割台となっています。



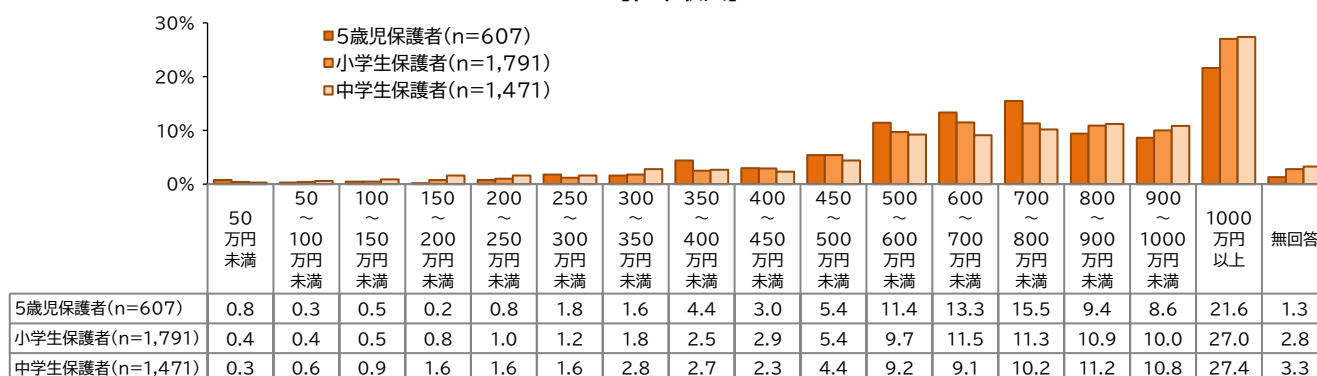
(保護者)問 21/20 世帯収入

世帯収入を見ると、すべての保護者層で「1000 万円以上」の割合が2割台で最も高く、次いで5歳児保護者は「700～800 万円未満」、小学生保護者は「600～700 万円未満」、中学生保護者は「800～900 万円未満」が高くなっています。

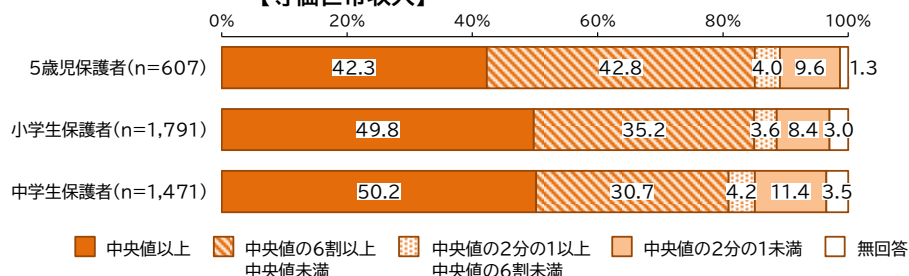
等価世帯収入を見ると、子供の年齢が高まるにつれて「中央値以上」が高くなっており、中学生保護者で 50.2%と約半数を占めています。

世帯の状況別に見ると、すべての保護者層で、ふたり親世帯の方がひとり親世帯よりも「中央値以上」の割合が高くなっており、中学生保護者のふたり親世帯で 53.8%と最も高くなっています。

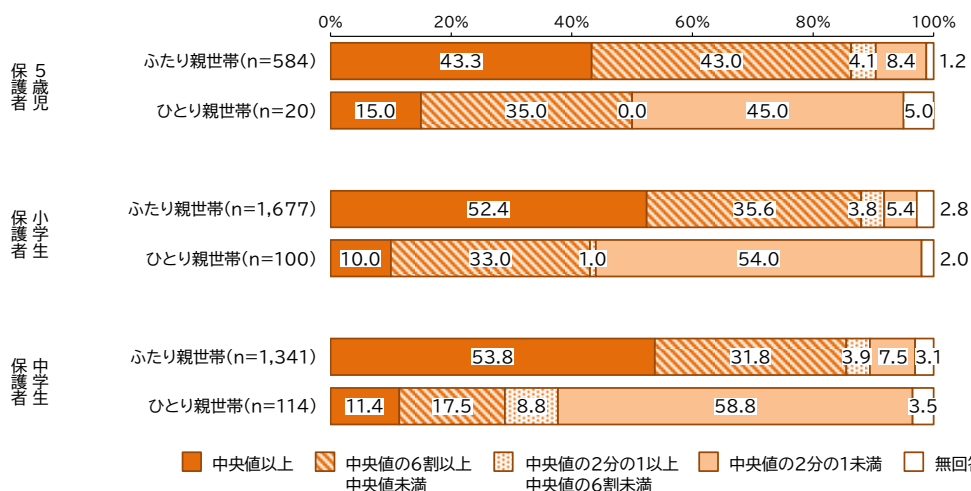
【世帯収入】



【等価世帯収入】

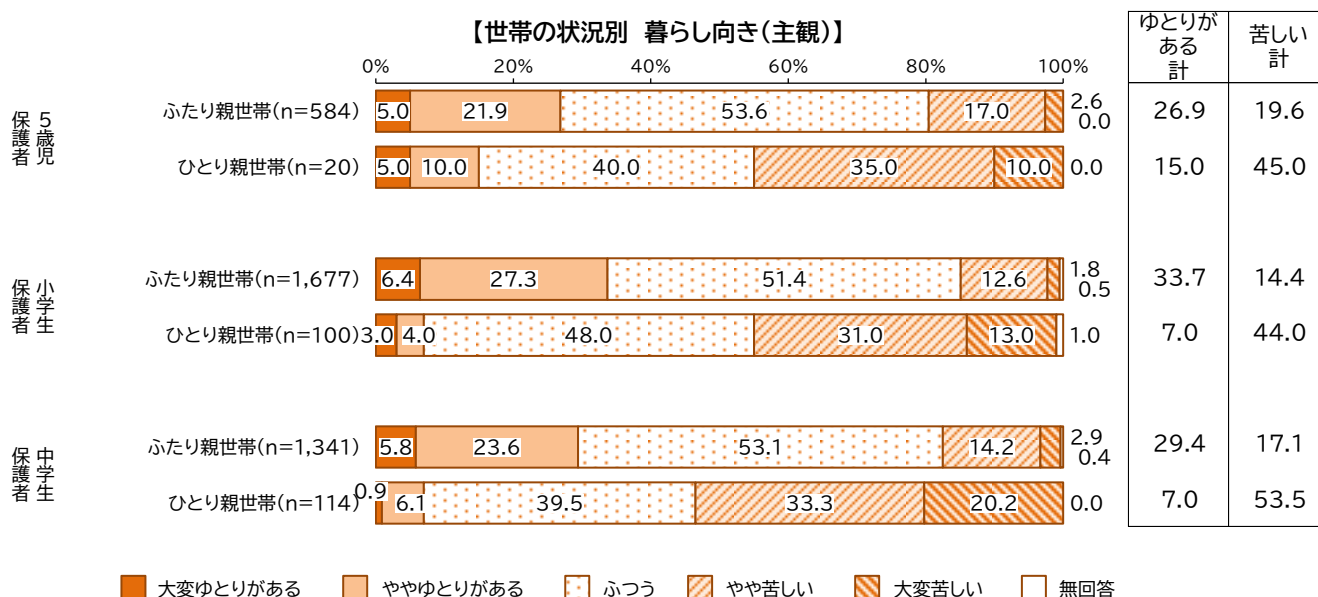


【世帯の状況別 等価世帯収入】



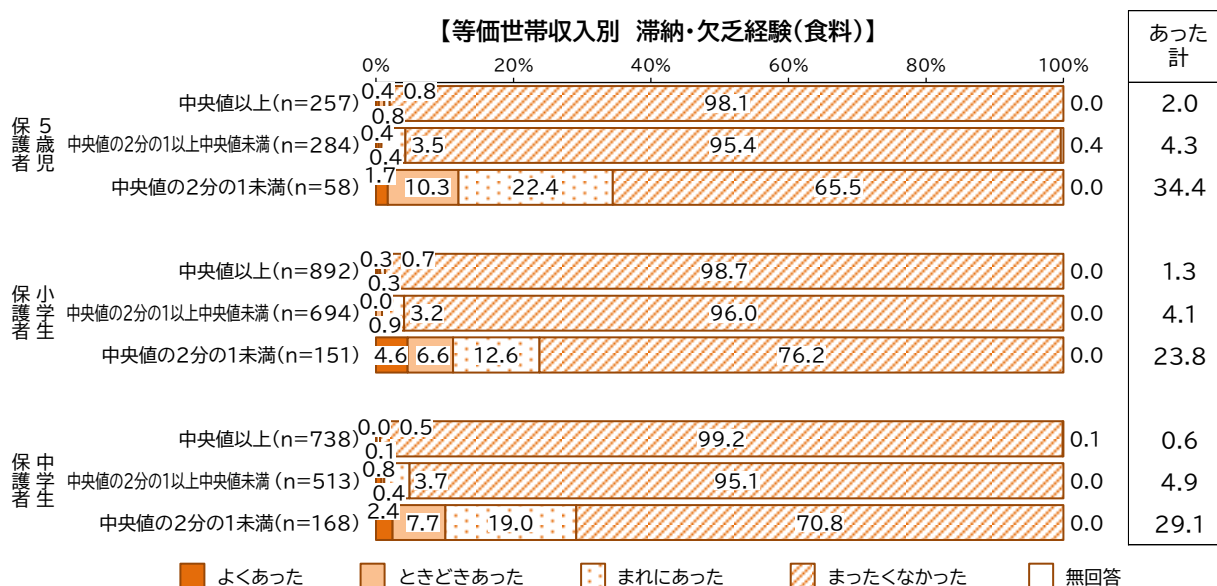
(保護者)問 20/19 暮らし向き(主観)

暮らし向き(主観)を世帯の状況別に見ると、すべての保護者層で、ふたり親世帯の方がひとり親世帯よりも『ゆとりがある』の割合が高くなっており、小学生保護者のふたり親世帯で 33.7%と最も高くなっています。



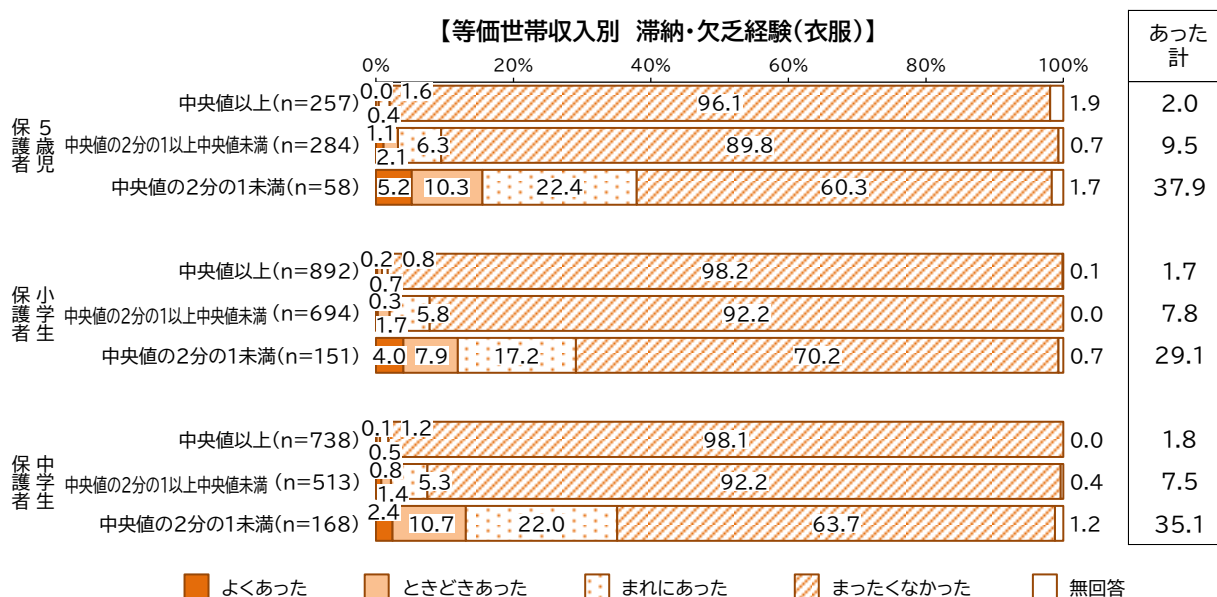
(保護者)問 22/21 滞納・欠乏経験(食料)

食料における滞納・欠乏経験を等価世帯収入別に見ると、すべての保護者層で、所得が低くなるにつれて『あった』の割合が高くなっており、5歳児保護者の中央値の2分の1未満の世帯で 34.4%と最も高くなっています。



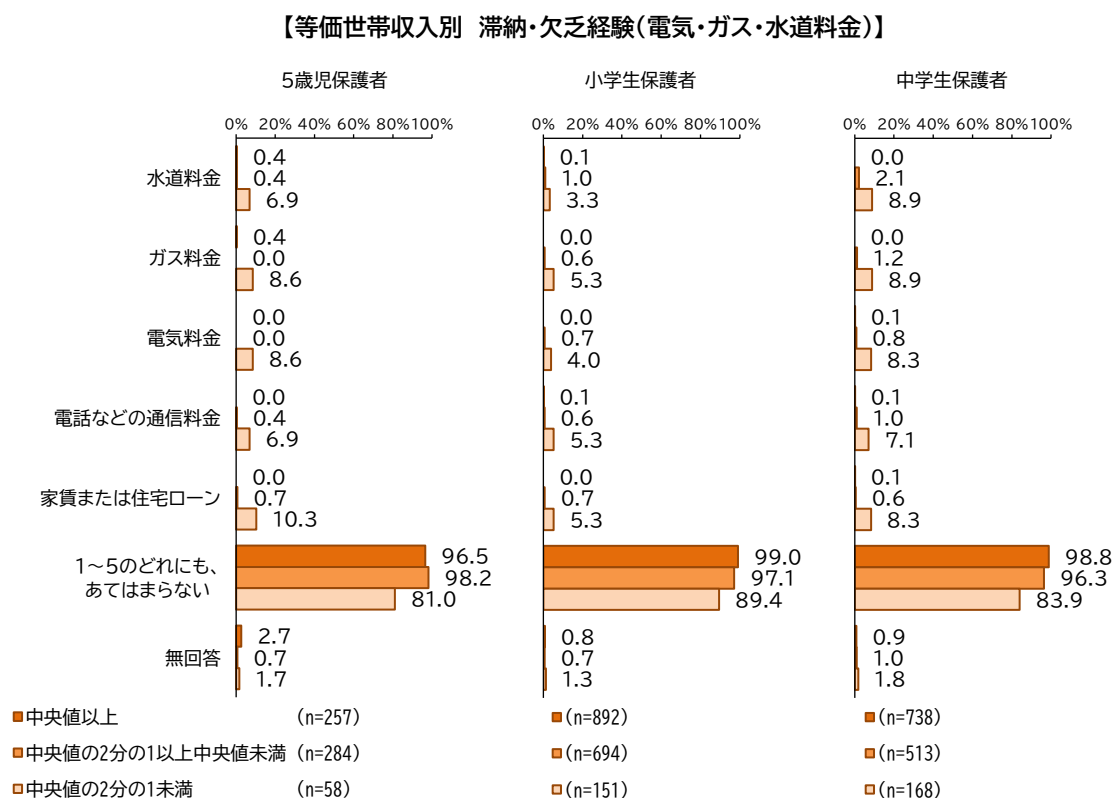
(保護者)問 23/22 滞納・欠乏経験(衣服)

衣服における滞納・欠乏経験を等価世帯収入別に見ると、すべての保護者層で、所得が低くなるにつれて『あった』の割合が高くなっており、5歳児保護者の中央値の2分の1未満の世帯で37.9%と最も高くなっています。



(保護者)問 24/23 滞納・欠乏経験(電気・ガス・水道料金)

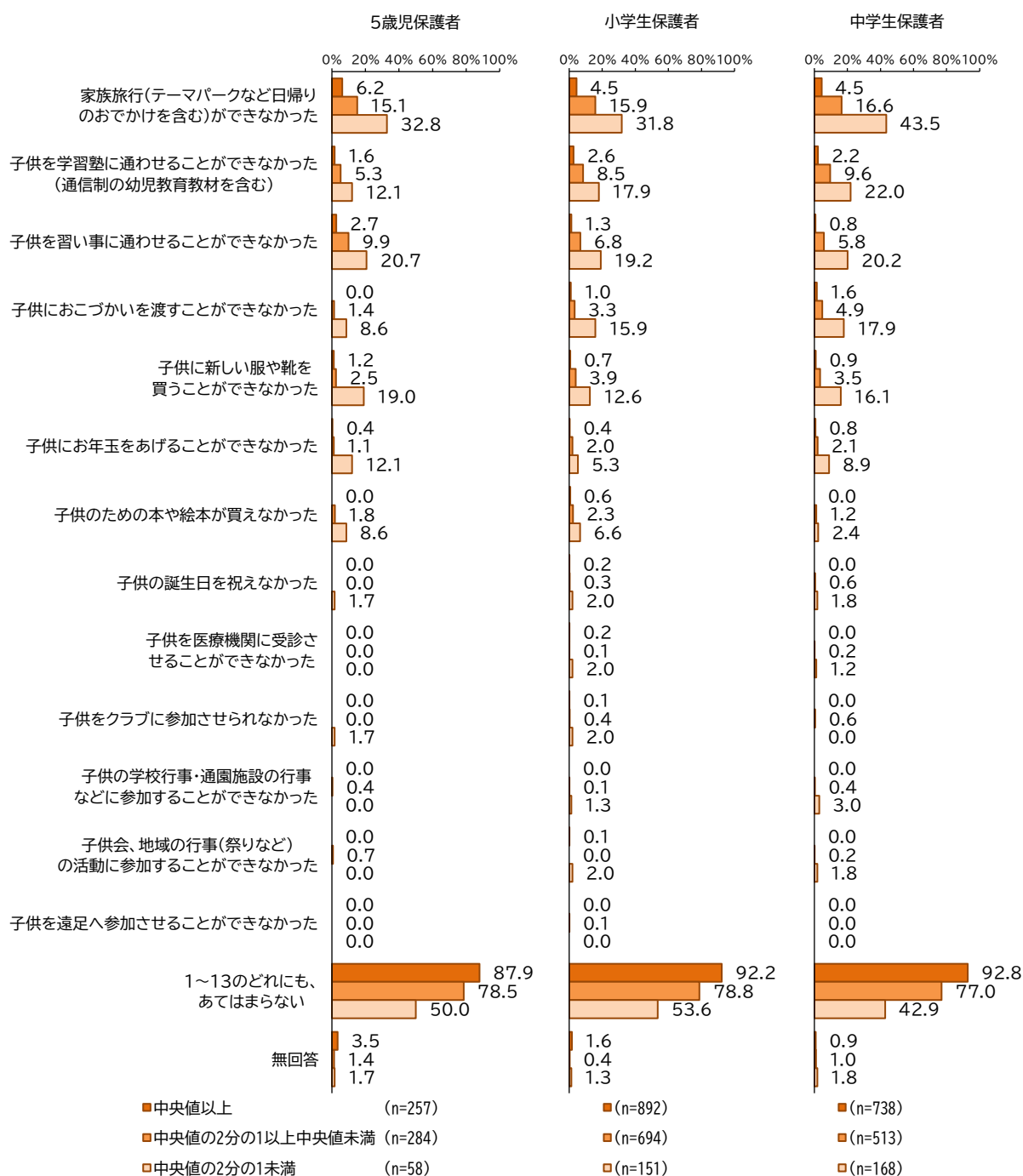
電気・ガス・水道料金における滞納・欠乏経験を等価世帯収入別に見ると、すべての保護者層で、中央値の2分の1未満の世帯の「1～5 のどれにも、あてはまらない」の割合が 8 割台でやや低い。5歳児保護者の「家賃または住宅ローン」が 10.3%と、滞納・欠乏経験として最も高くなっています。



(保護者)問 25/24 経済的な理由で控えたりあきらめたりした経験

経済的な理由で何かを控えたりあきらめたりした経験について、等価世帯収入別に見ると、すべての保護者層で、所得が低くなるにつれて「1～13 のどれにも、あてはまらない」の割合が低くなっており、何かしらの控えたりあきらめたりしたという経験をしています。中学生保護者の中央値の2分の1未満の世帯で「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」が43.5%、「子供を学習塾に通わせることができなかった(通信制の幼児教育教材を含む)」が22.0%と、他の世帯層よりも高くなっています。

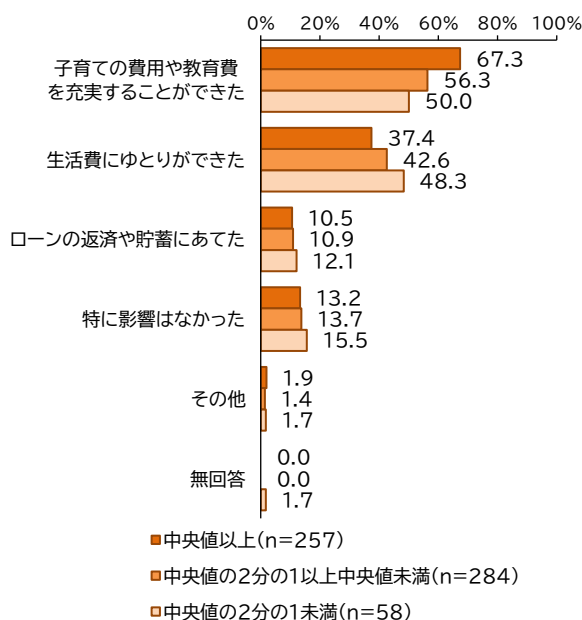
【等価世帯収入別 経済的な理由で何かを控えたりあきらめたりした経験】



(5 歳児保護者)問 15 幼児教育・保育・療育の無償化の効果

幼児教育・保育・療育の無償化の効果を等価世帯収入別に見ると、中央値以上の世帯で「子育ての費用や教育費を充実することができた」が 67.3%と、他の世帯層よりも高くなっています。

【等価世帯収入別 幼児教育・保育・療育の無償化の効果】

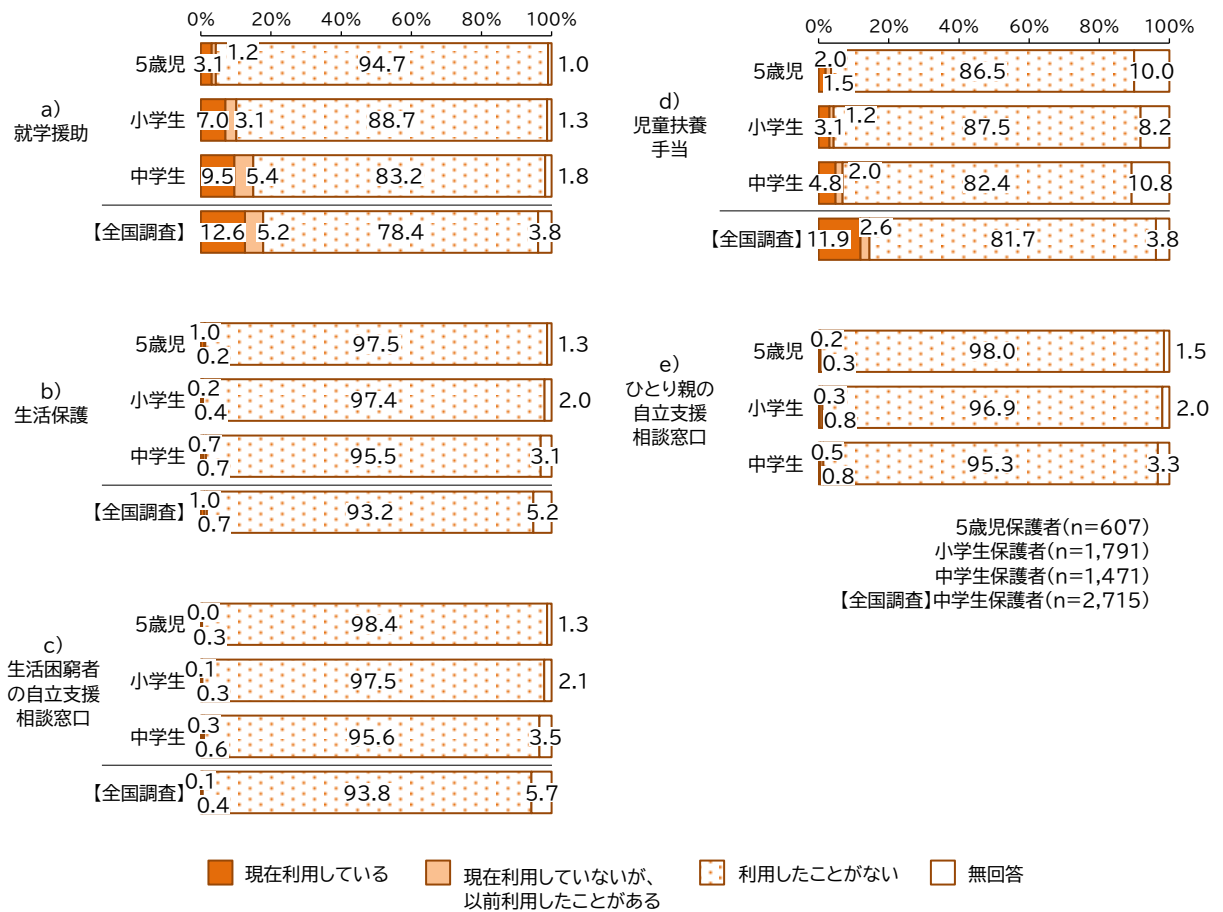


(保護者)問 31/30 支援制度の利用状況

支援制度の利用状況を見ると、「a) 就学援助」と「d) 児童扶養手当」では、子供の年齢が上がるほど「現在利用している」の割合が高くなっており、中学生の「a) 就学援助」で 9.5%、「d) 児童扶養手当」で 4.8%となっています。それ以外の支援制度はすべての保護者層で「利用したことがない」が9割以上となっています。

支援を利用したことがない理由を見ると、すべての支援制度で、すべての保護者層で「制度の対象外(収入等の条件を満たさない)だと思ふから」が9割前後となっています。

【支援制度の利用状況】



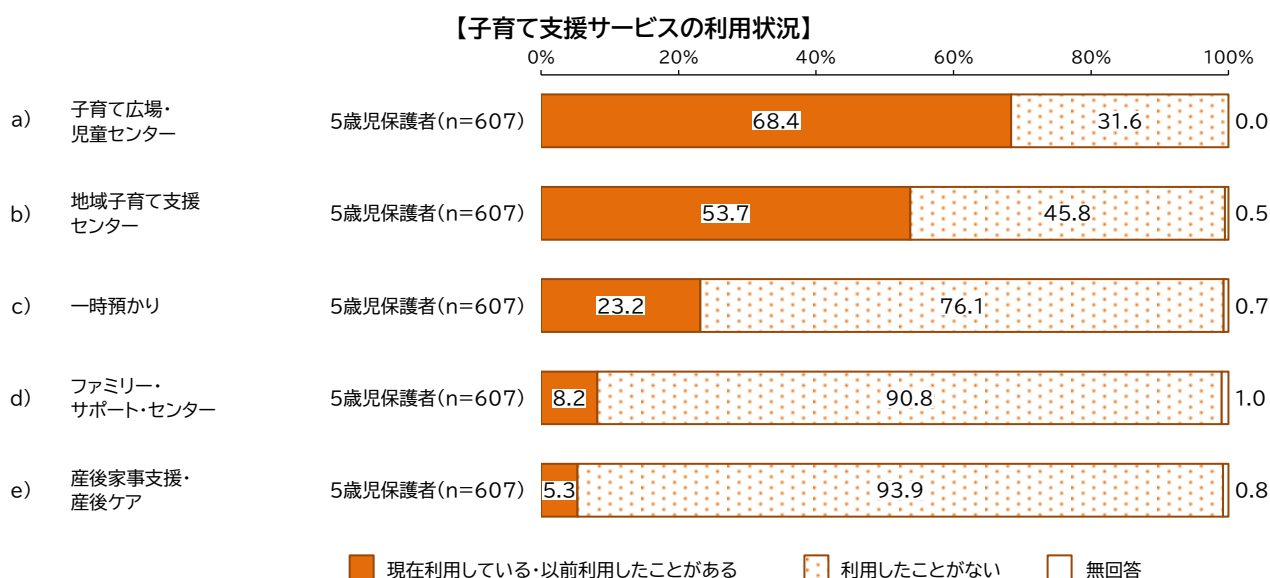
【支援制度を利用したことがない理由】

		回答者数 (n)	制度の対 象外(収入 等の条件 を満たさ ない)だと思 うから	利用はで きるが、特 に利用した と思わ なかった から	利用した いが、今ま でこの支 援制度を 知らなかつ たから	利用した いが、手続 がわから なかった り、利用し にくいから	それ以外 の理由	無回答
a 就学援助	5歳児保護者	575	87.7%	1.2%	1.4%	0.5%	5.0%	4.2%
	小学生保護者	1,588	91.0%	0.6%	0.4%	0.4%	1.5%	6.2%
	中学生保護者	1,224	90.8%	0.4%	0.2%	0.7%	1.4%	6.5%
b 生活保護	5歳児保護者	592	93.2%	0.3%	-	0.3%	2.5%	3.5%
	小学生保護者	1,744	90.7%	0.7%	-	0.2%	1.5%	6.9%
	中学生保護者	1,405	90.1%	0.4%	-	0.3%	1.6%	7.6%
c 生活困窮者の自立支援相談窓口	5歳児保護者	597	91.0%	1.0%	-	0.8%	3.0%	4.2%
	小学生保護者	1,747	88.7%	1.4%	0.3%	0.5%	1.9%	7.3%
	中学生保護者	1,406	87.8%	1.4%	0.1%	0.4%	2.4%	8.0%
d 児童扶養手当	5歳児保護者	525	93.3%	0.2%	0.6%	0.4%	1.7%	3.8%
	小学生保護者	1,567	90.9%	0.2%	0.1%	0.1%	1.6%	7.0%
	中学生保護者	1,212	90.2%	0.2%	-	0.1%	2.0%	7.6%
e ひとり親の自立支援相談窓口	5歳児保護者	595	91.3%	1.3%	-	0.2%	3.7%	3.5%
	小学生保護者	1,735	88.0%	2.2%	0.2%	0.3%	2.2%	6.9%
	中学生保護者	1,402	86.7%	1.9%	0.2%	0.2%	3.3%	7.7%

(5 歳児保護者)問 31 子育て支援サービスの利用状況

子育て支援サービスの利用状況を見ると、「現在利用している・以前利用したことがある」と回答した割合については、「a) 子育て広場・児童センター」が 68.4%、「b) 地域子育て支援センター」が 53.7%、「c) 一時預かり」が 23.2%となっています。

子育て支援サービスを利用したことがない理由を見ると、いずれのサービスも「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が3～4割程度で最も高くなっています。



【子育て支援サービスを利用したことがない理由】

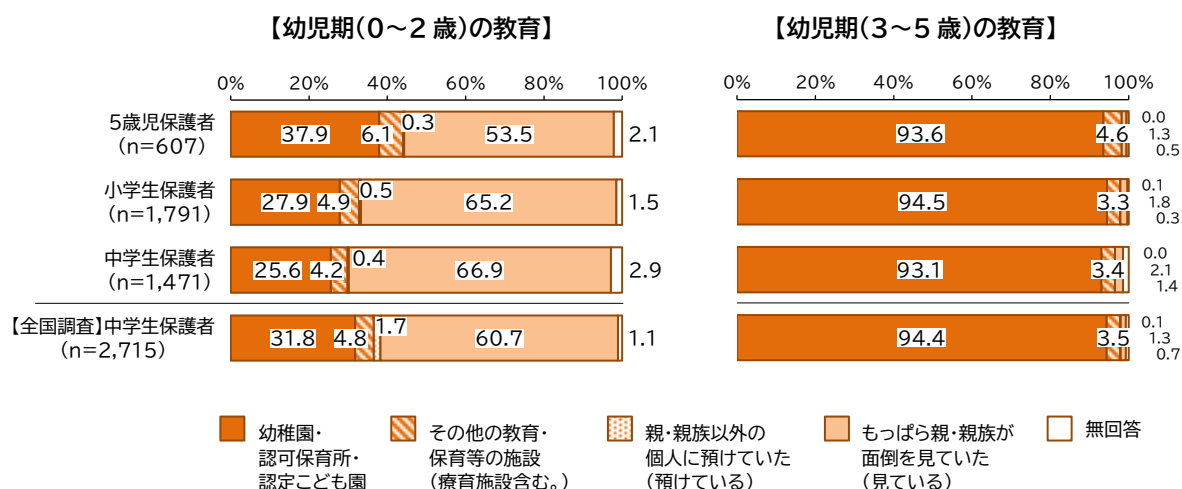
		回答者数 (n)	制度の対象外だ と思うから	利用はで きるが、特 に利用した と思わな かった から	利用した いが、今ま でこの支 援制度を 知らなかつ たから	利用した いが、利用 の方法が わからな かったり、 利用しにく いから	それ以外 の理由	無回答
a	子育て広場・児童センター	5 歳児保護者	192	12.5%	45.8%	2.1%	19.3%	1.0%
b	地域子育て支援センター	5 歳児保護者	278	12.9%	45.7%	7.6%	16.2%	2.2%
c	一時預かり	5 歳児保護者	462	23.8%	43.7%	1.9%	16.2%	3.5%
d	ファミリー・サポート・センター	5 歳児保護者	551	12.7%	49.4%	3.3%	20.5%	2.5%
e	産後家事支援・産後ケア	5 歳児保護者	570	24.2%	36.5%	9.8%	14.6%	2.8%

(3)学習環境

(保護者)問 12 幼児期の教育

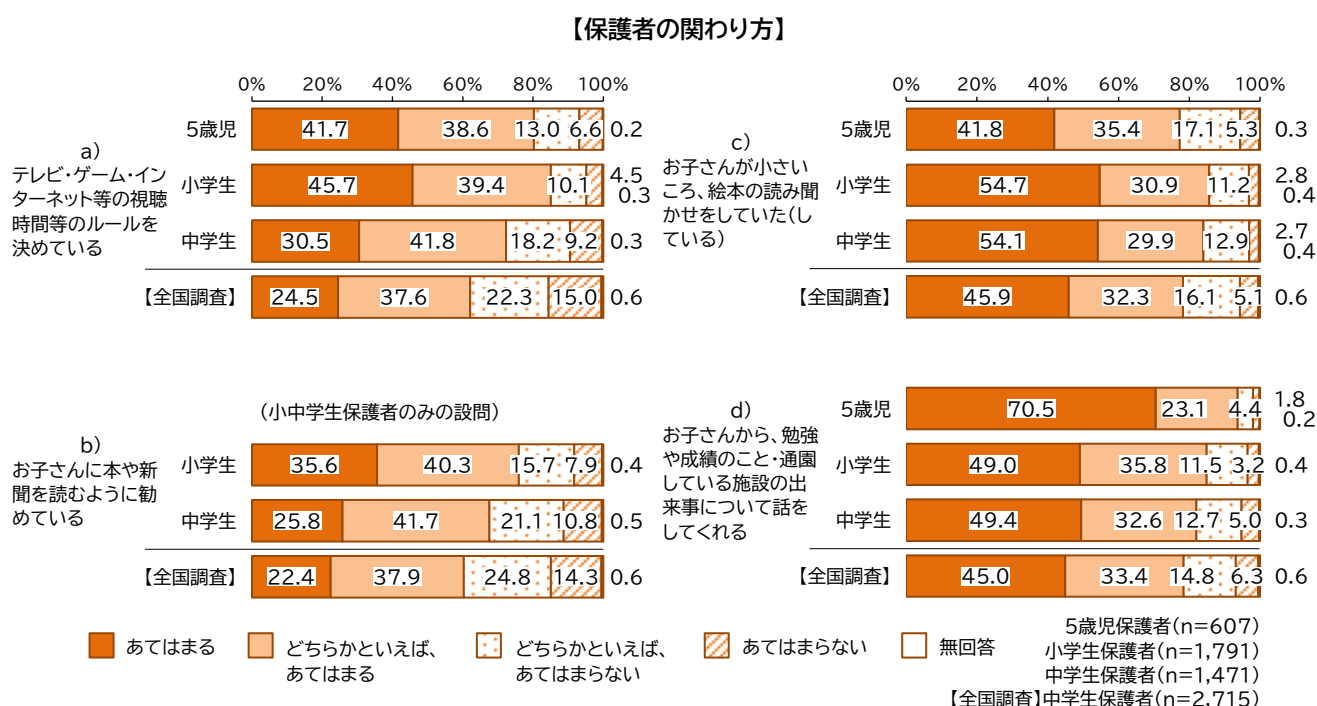
幼児期の教育を見ると、0～2歳の教育は、すべての保護者層で「もっぱら親・親族が面倒を見ていた(見ている)」が5～6割台で最も高く、次いで「幼稚園・認可保育所・認定こども園」となっています。

3～5歳の教育は、すべての保護者層で「幼稚園・認可保育所・認定こども園」が9割以上で最も高くなっています。



(保護者)問 13 保護者の関わり方

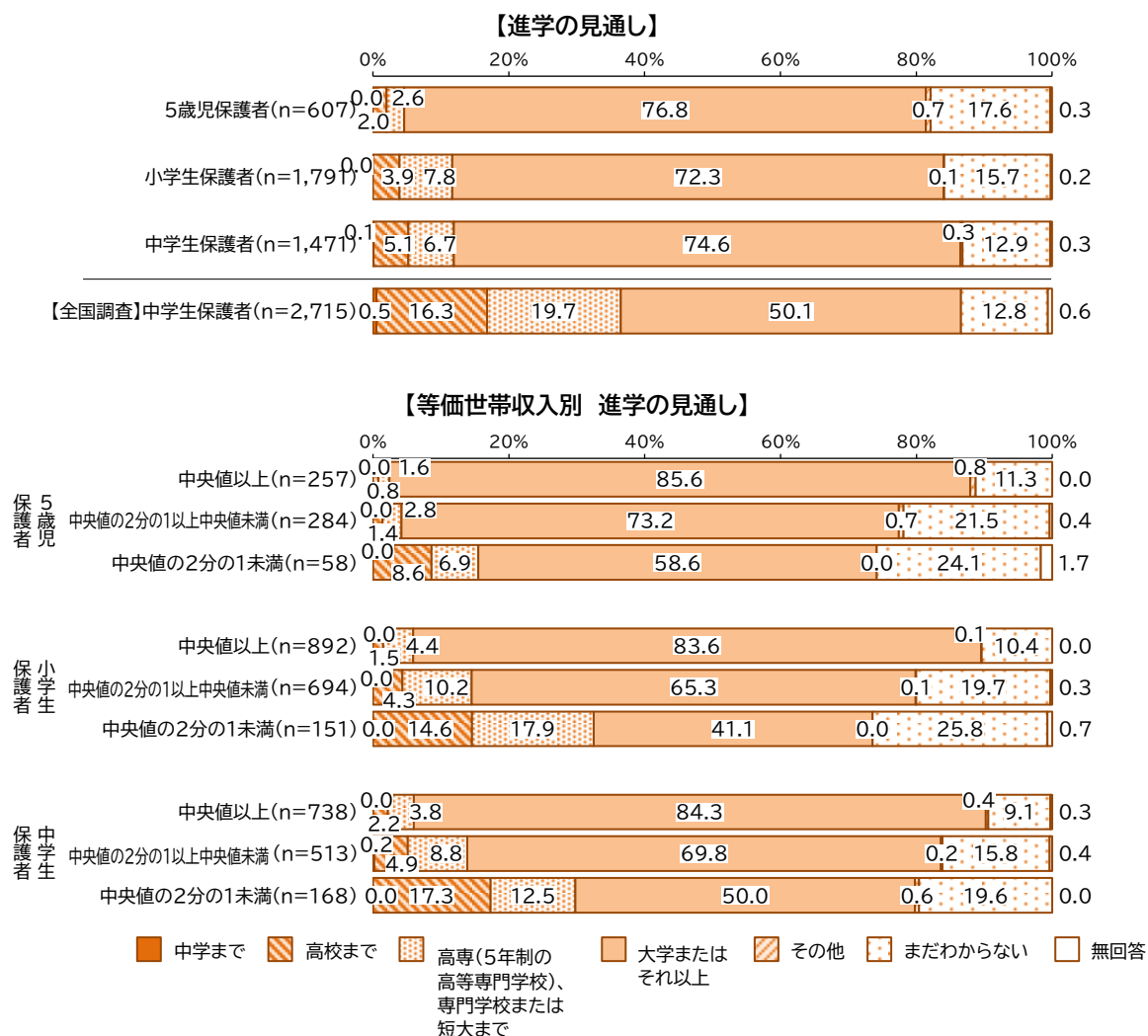
保護者の関わり方を見ると、すべての項目のすべての保護者層で『あてはまる』(「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」の合計)の割合は6～9割台となっており、5歳保護者の「d) お子さんから、勉強や成績のこと・通園している施設の出来事について話をしてくれる」で93.6%となっています。



(保護者)問 15/16 進学の見通し

進学の見通しを見ると、すべての保護者層で「大学またはそれ以上」の割合が7割台で最も高くなっています。

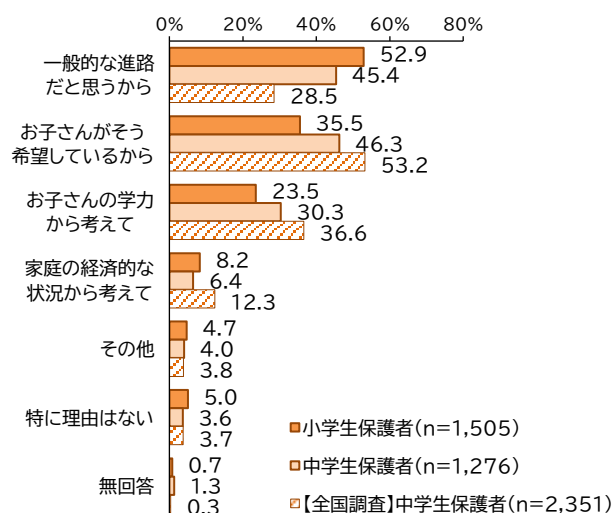
等価世帯収入別に見ると、所得が高くなるほど「大学またはそれ以上」が高くなり、中央値以上の世帯で、それぞれ8割以上を占めています。



【想定する進学先の理由】

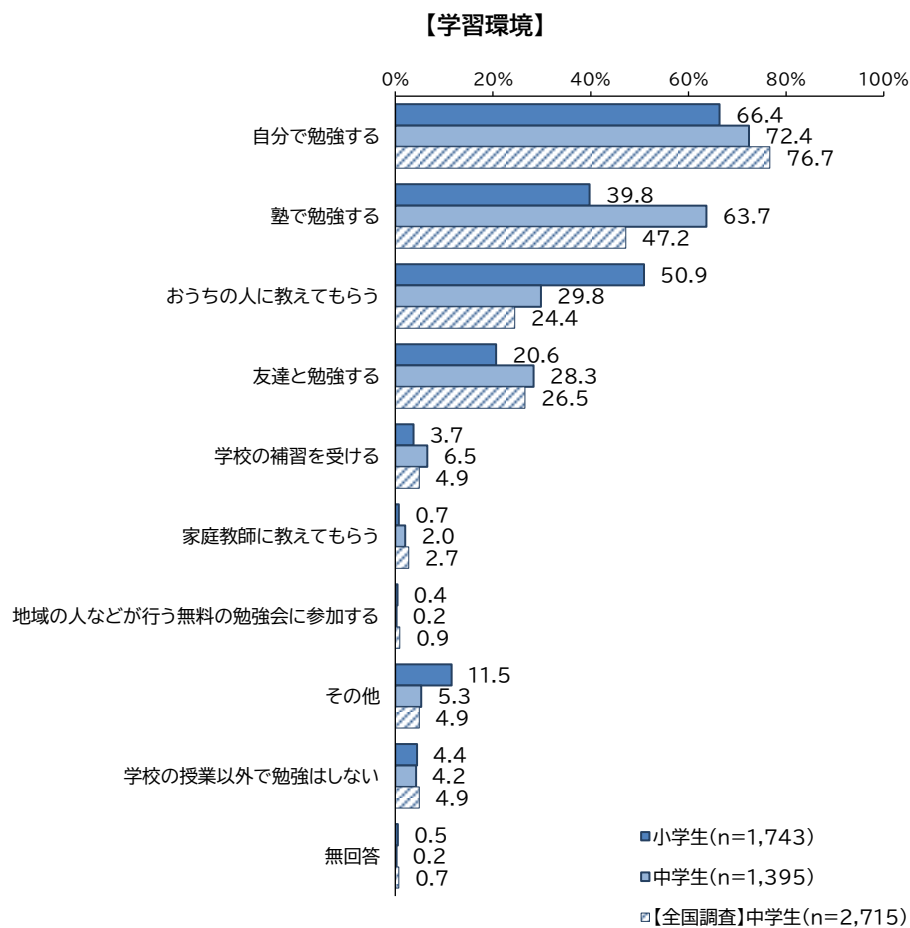
小中学生保護者)問 16 想定する進学先の理由

想定する進学先の理由を見ると、小学生保護者は「一般的な進路だと思うから」が52.9%、中学生保護者は、「お子さんがそう希望しているから」が46.3%で最も高くなっています。



(子供)問 2 学習環境

学習環境を見ると、どちらの学年も「自分で勉強する」が6～7割台で最も高く、次いで小学生は「おうちの人に教えてもらう」、中学生は「塾で勉強する」となっています。

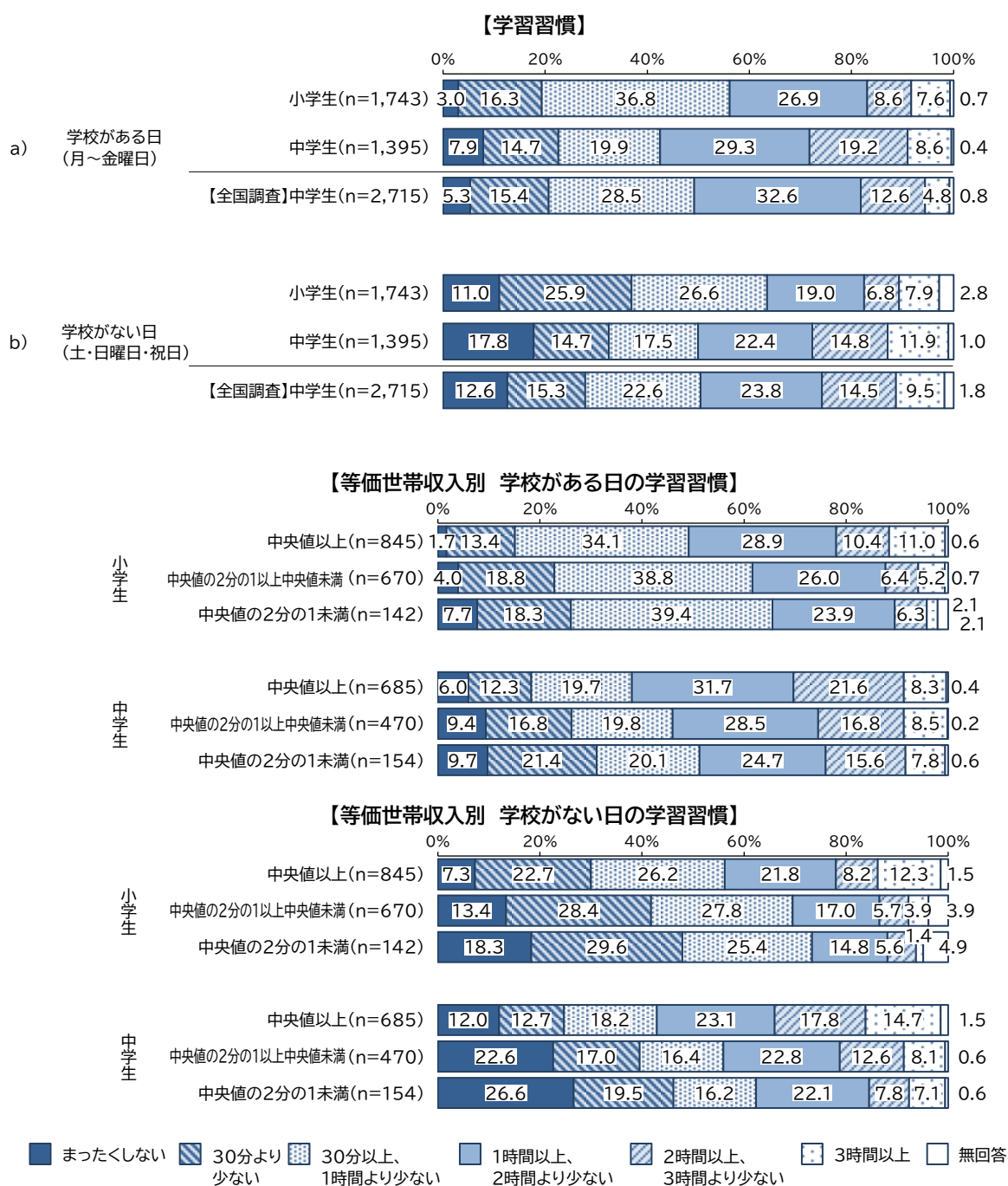


(子供)問3 学習習慣

学習習慣を見ると、「a) 学校がある日(月～金曜日)」では、小学生は「30分以上、1時間より少ない」が36.8%、中学生は「1時間以上、2時間より少ない」が29.3%で最も高くなっています。

「b) 学校がない日(土・日曜日・祝日)」では、小学生は「30分以上、1時間より少ない」が26.6%、中学生は「1時間以上、2時間より少ない」が22.4%で最も高くなっています。

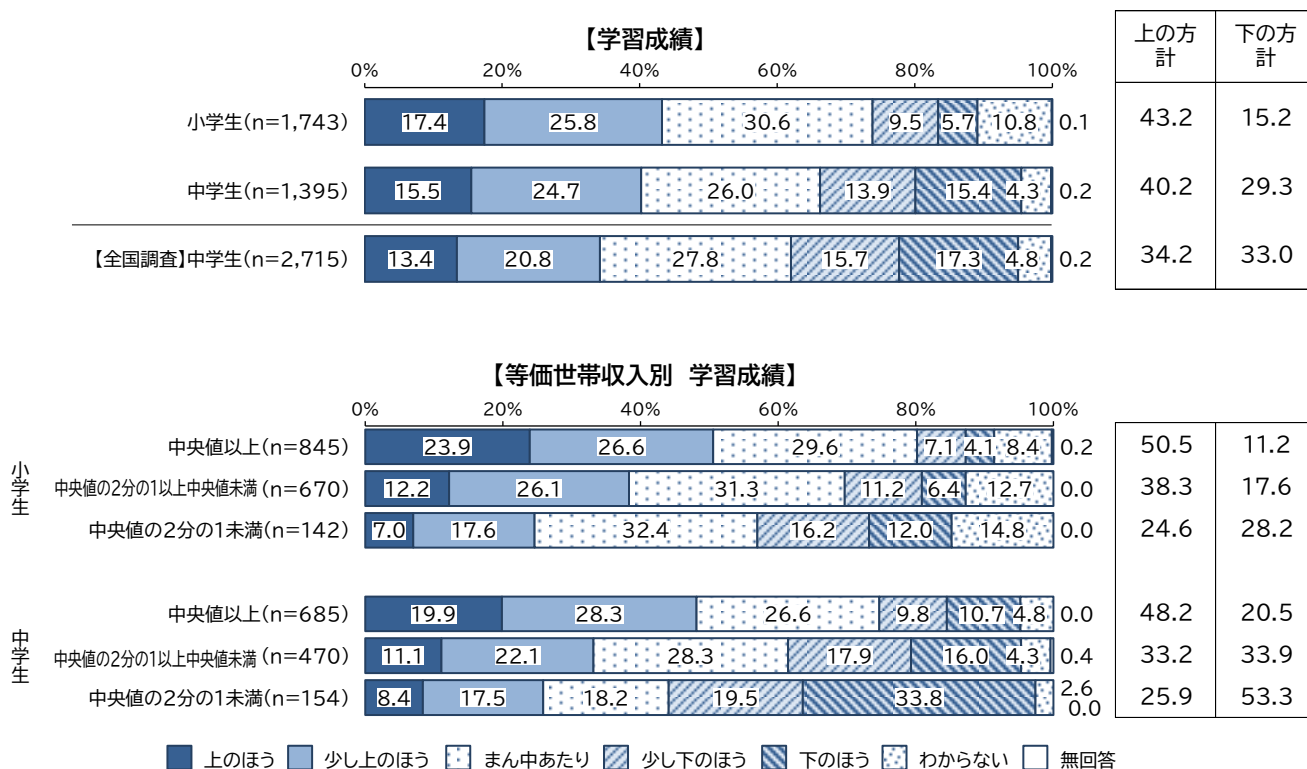
等価世帯収入別に見ると、「a) 学校がある日(月～金曜日)」、「b) 学校がない日(土・日曜日・祝日)」ともに、所得が高まるにつれて学習時間が多くなる傾向がみられます。



(子供)問 4 学習成績

学習成績を見ると、どちらの学年も「まん中あたり」が3割前後で最も高く、次いで「少し上のほう」となっています。中学生は『下の方』（「少し下のほう」と「下のほう」の合計）が約3割となっています。

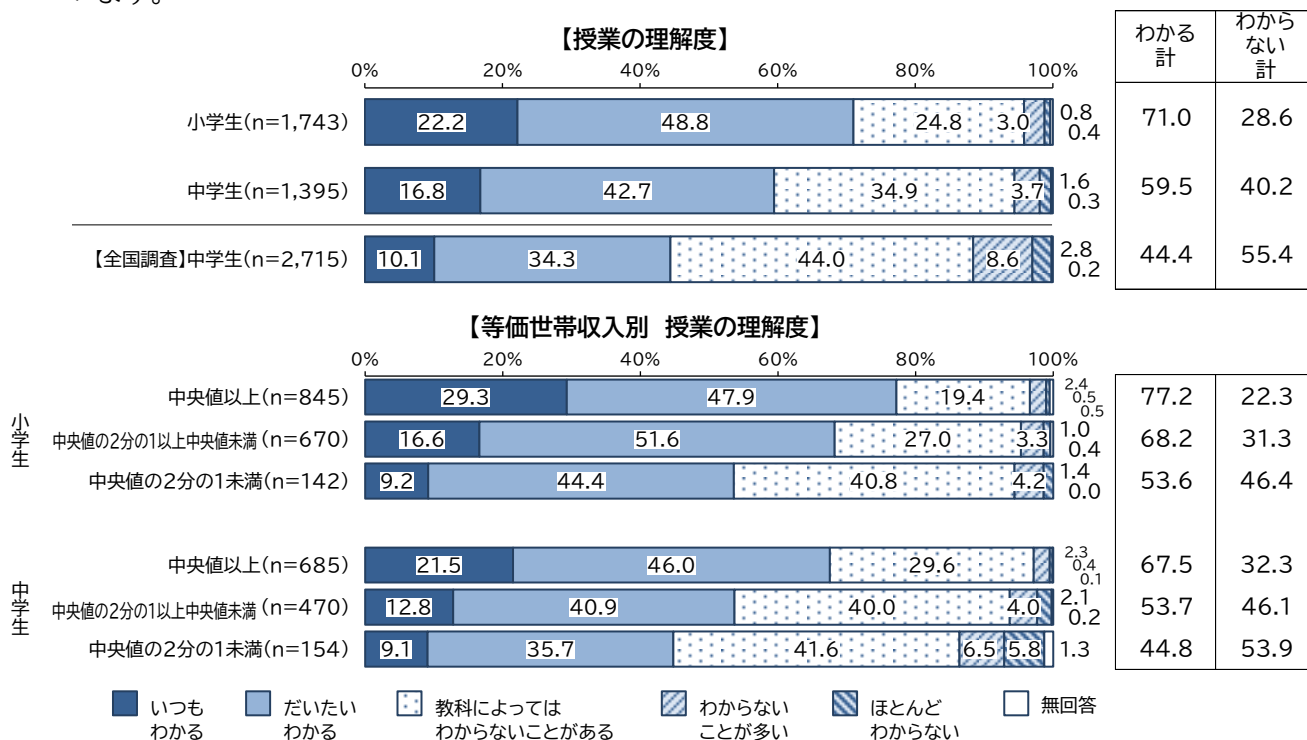
等価世帯収入別に見ると、どちらの学年も、所得が高まるにつれて『上の方』の割合が高くなっており、小学生の中央値以上の世帯で 50.5%と最も高くなっています。



(子供)問 5 授業の理解度

授業の理解度を見ると、『わかる』(「いつもわかる」と「だいたいわかる」の合計)は小学生で 71.0%、中学生で 59.5%となっています。また、「教科によってはわからないことがある」は、中学生で 34.9%と高くなっています。

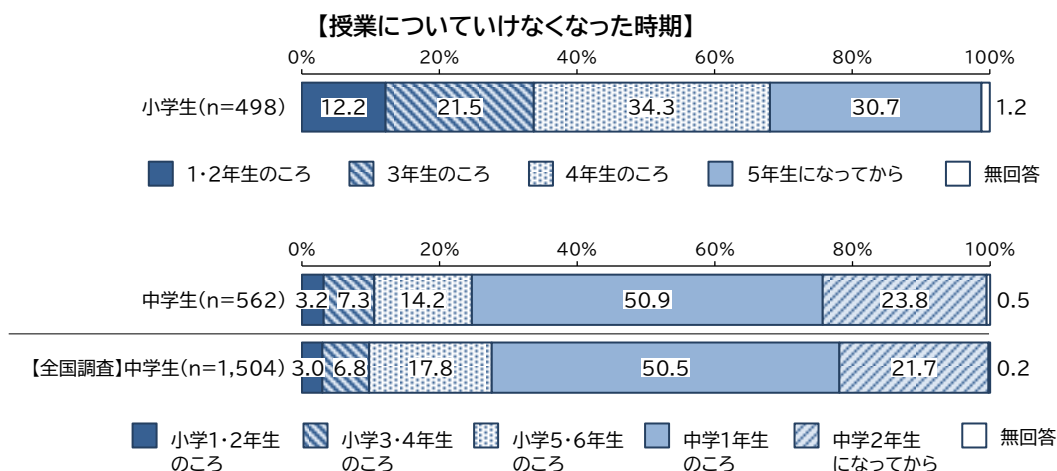
等価世帯収入別に見ると、どちらの学年も、所得が高まるにつれて『わかる』の割合が高くなっており、小学生の中央値以上の世帯で 77.2%、中学生の中央値以上の世帯で 67.5%となっています。



(子供)問 6 授業についていけなくなった時期

授業についていけなくなった時期を見ると、小学生は、「4 年生のころ」が 34.3%で最も高く、次いで「5 年生になってから」が 30.7%、「3 年生のころ」が 21.5%となっています。

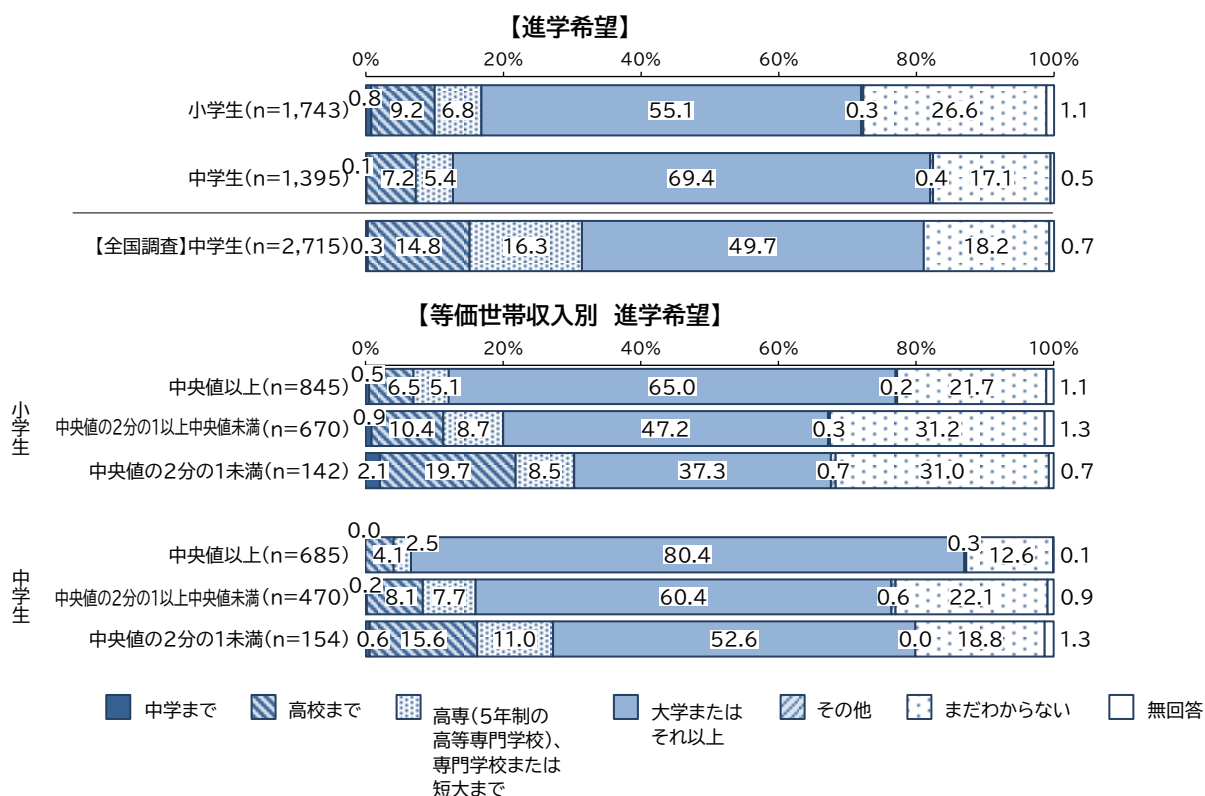
中学生は、「中学 1 年生のころ」が 50.9%で最も高く、次いで「中学 2 年生になってから」が 23.8%、「小学 5・6 年生のころ」が 14.2%となっています。



(子供)問 7 進学希望

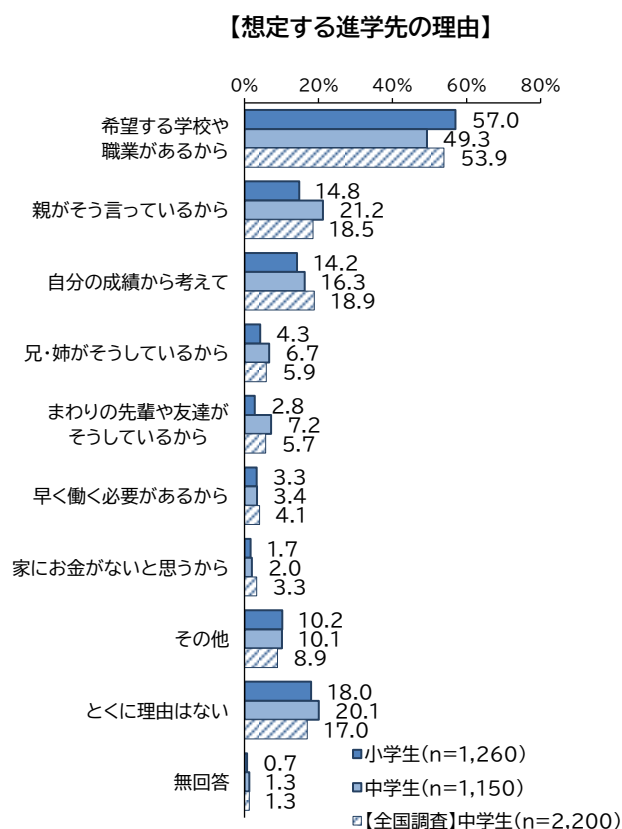
進学希望を見ると、どちらの学年も「大学またはそれ以上」が5～6割台で最も高く、次いで「まだわからない」が1～2割程度、「高校まで」が1割弱となっています。

等価世帯所得別にみると、所得が高いほど「大学またはそれ以上」の割合が高く、小学生の中央値以上の世帯で65.0%、中学生の中央値以上の世帯で80.4%となっています。



(子供)問 8 想定する進学先の理由

想定する進学先の理由を見ると、どちらの学年も「希望する学校や職業があるから」が5割前後で最も高く、次いで小学生は「とくに理由はない」、中学生は「親がそう言っているから」となっています。

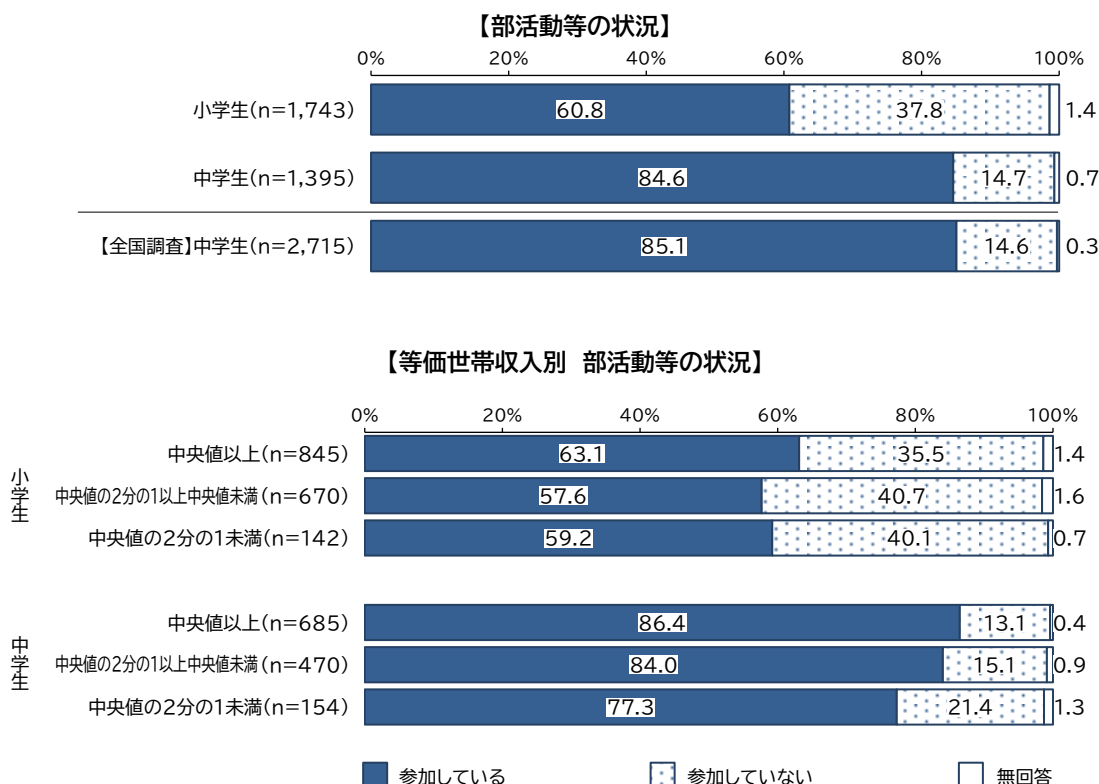


(4)生活・健康面

(子供)問 9 部活動等の状況

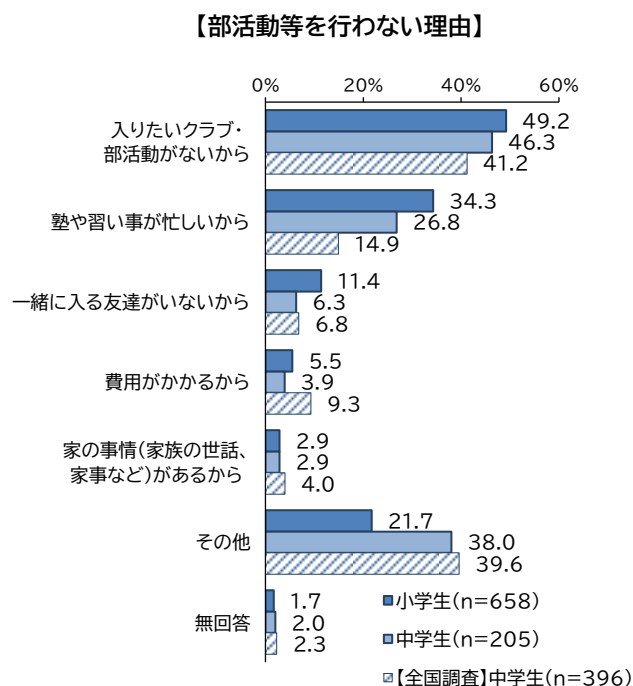
部活動等の状況を見ると、どちらの学年も「参加している」が小学生で 60.8%、中学生で 84.6%と最も高く、次いで「参加していない」が小学生で 37.8%、中学生で 14.7%となっています。

等価世帯収入別に見ると、どちらの学年も、所得が高まるにつれて、「参加している」の割合が高くなり、中学生の中央値以上の世帯で 86.4%となっています。



(子供)問 10 部活動等を行わない理由

部活動等を行わない理由を見ると、どちらの学年も「入りたいクラブ・部活動がないから」が4割台で最も高く、次いで小学生は「塾や習い事が忙しいから」が 34.3%、中学生は「その他」が 38.0%となっています。



(子供)問 11 家族のお世話

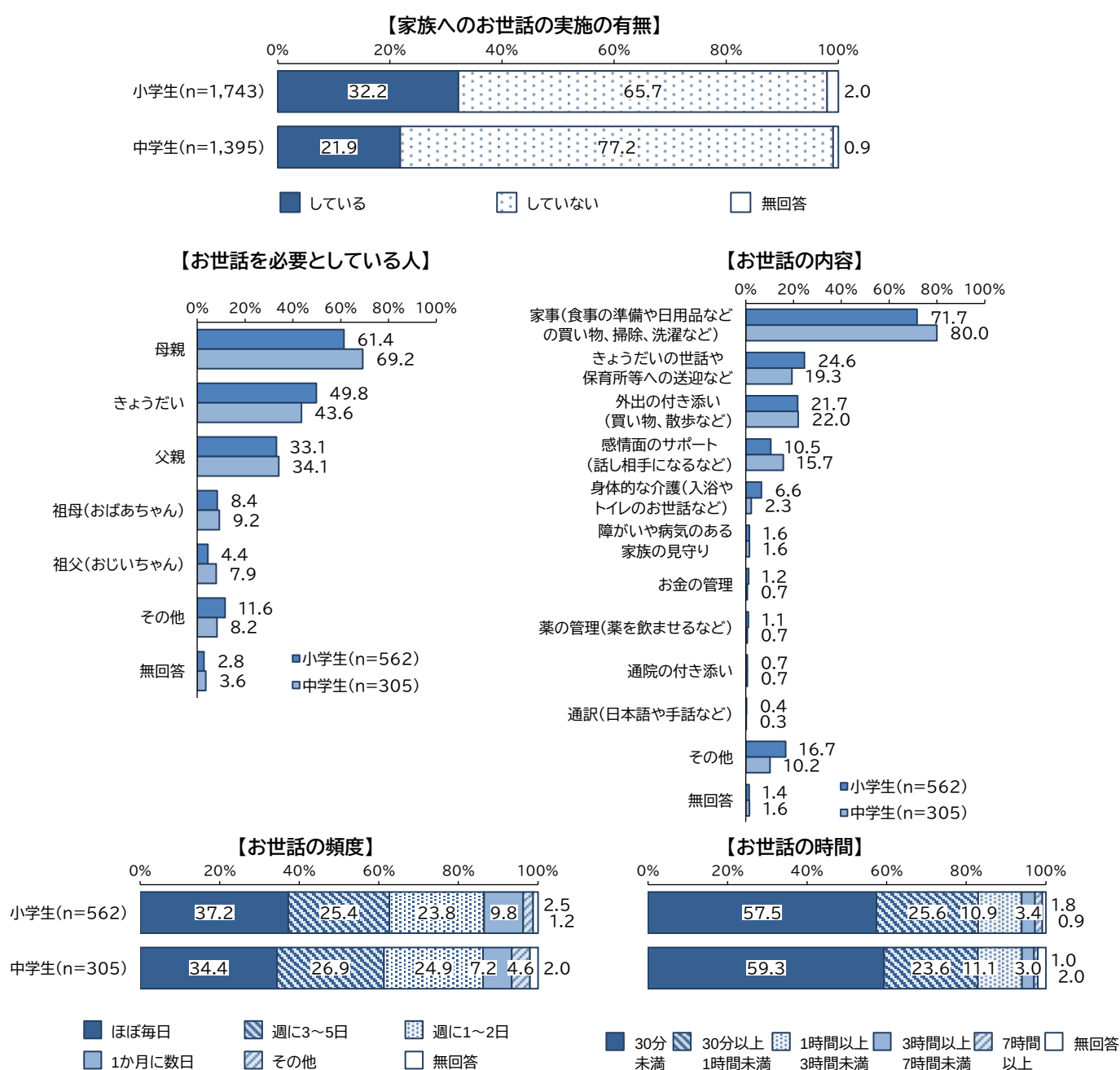
家族のお世話を見ると、「している」は小学生で 32.2%、中学生で 21.9%となっています。

お世話を必要としている人を見ると、どちらの学年も「母親」が6割台で最も高く、次いで「きょうだい」が4割台となっています。

お世話の内容は、どちらの学年も「家事(食事の準備や日用品などの買い物、掃除、洗濯など)」が7～8割程度で最も高く、次いで小学生は「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」、中学生は「外出の付き添い(買い物、散歩など)」となっています。

お世話の頻度は、どちらの学年も「ほぼ毎日」が3割台で最も高く、「週に3～5日」と「週に1～2日」が、それぞれ2割台となっています。

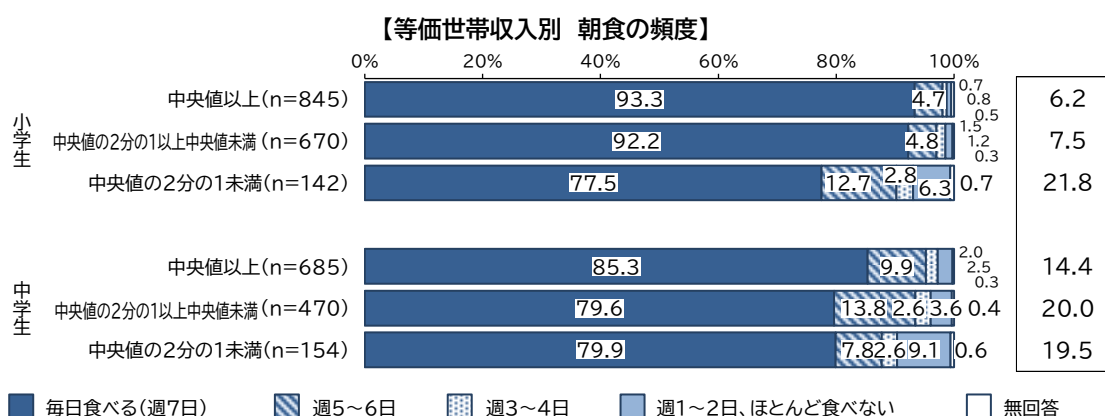
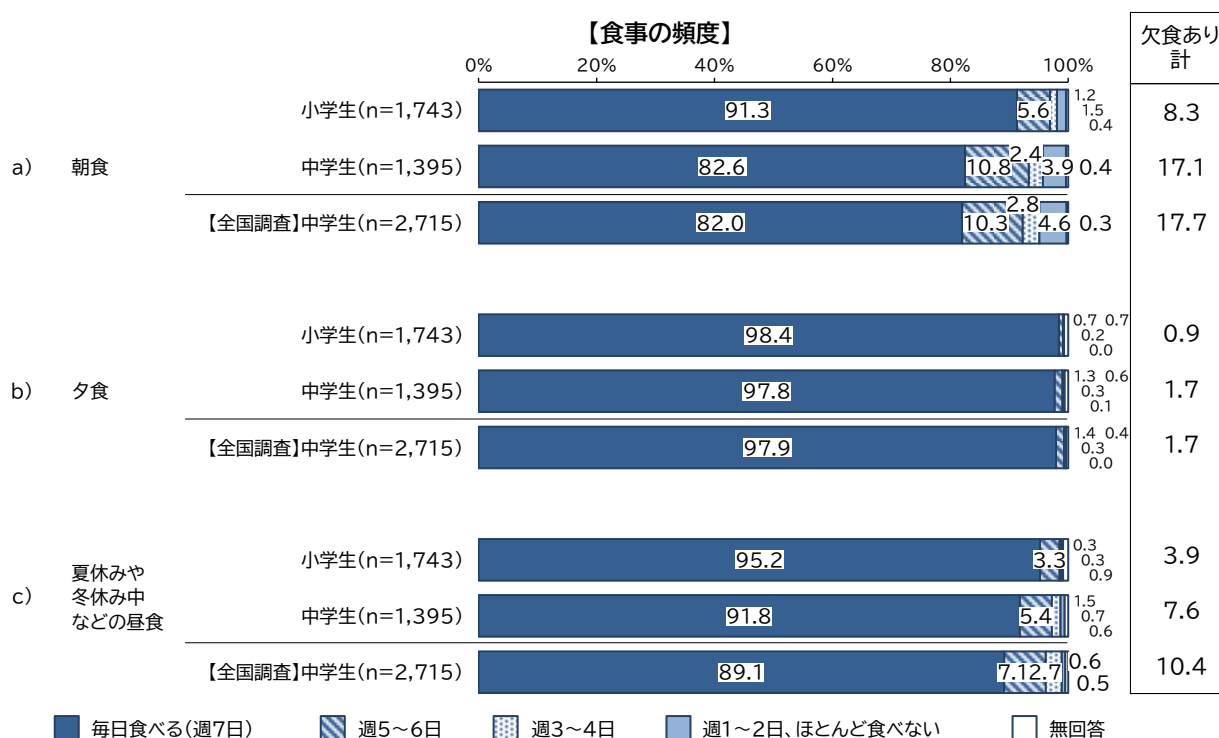
お世話の時間は、どちらの学年も、「30分未満」が5割台で最も高く、次いで「30分以上1時間未満」が2割台、「1時間以上3時間未満」が1割台となっています。



(子供)問 12 食事の頻度

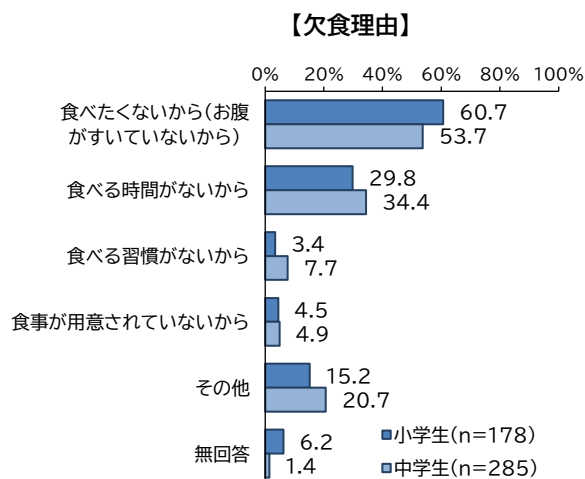
食事の頻度を見ると、中学生の「a) 朝食」を除き、すべての項目でどちらの学年も「毎日食べる(週7日)」が9割以上となっています。一方で中学生の「a) 朝食」は「毎日食べる(週7日)」が8割程度となり、『欠食あり』(「週5～6日」と「週3～4日」と「週1～2日、ほとんど食べない」の合計)が17.1%となっています。

朝食の頻度を等価世帯収入別に見ると、どちらの学年も所得が低くなるにつれて、『欠食あり』の割合が高くなり、中央値の2分の1未満の世帯で2割前後となっています。



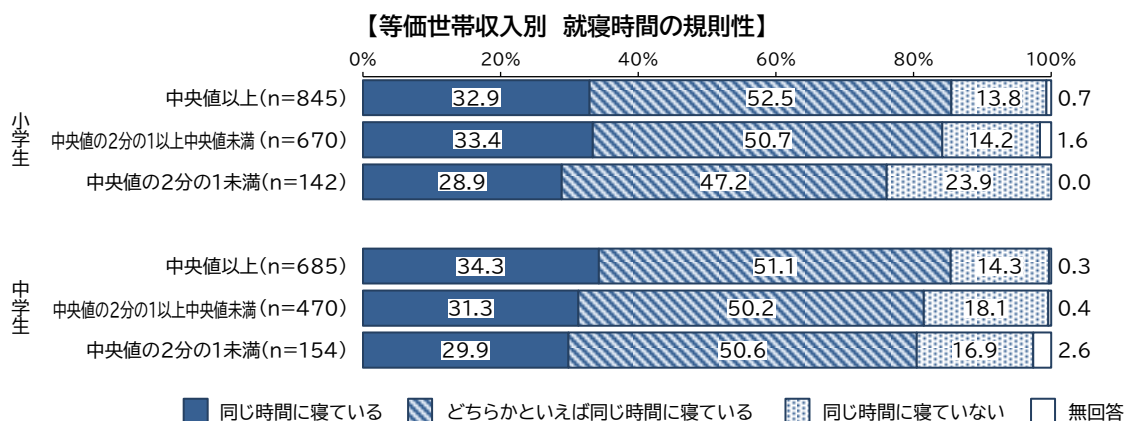
(子供)問 13 欠食理由

欠食理由を見ると、どちらの学年も「食べたくないから(お腹がすいていないから)」が5～6割程度最も高く、次いで「食べる時間がないから」が3割程度となっています。



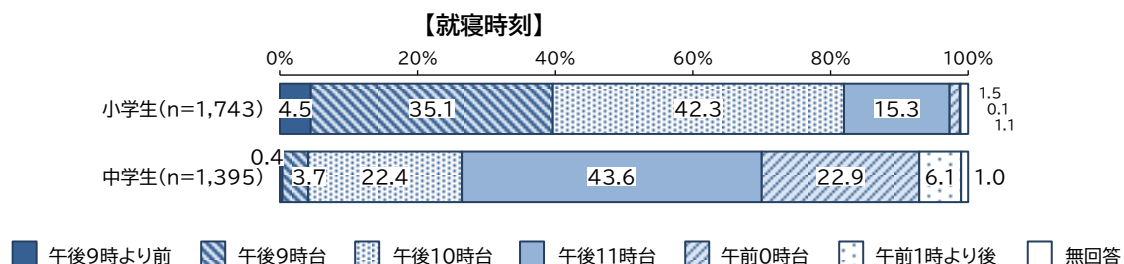
(子供)問 14 就寝時間の規則性

就寝時間の規則性を等価世帯収入別に見ると、小学生では所得が低くなるにつれて、「同じ時間に寝ていない」の割合が高くなっています。



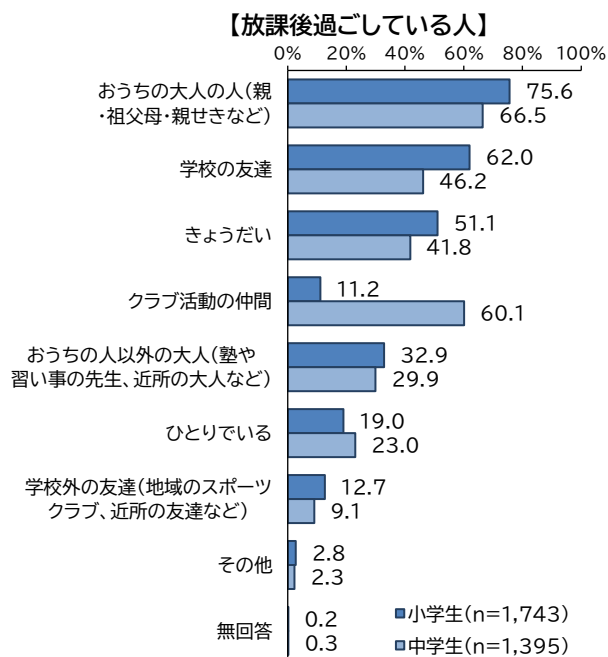
(子供)問 15 就寝時刻

就寝時刻を見ると、小学生は「午後 10 時台」、中学生は「午後 11 時台」が、それぞれ4割台で最も高くなっています。



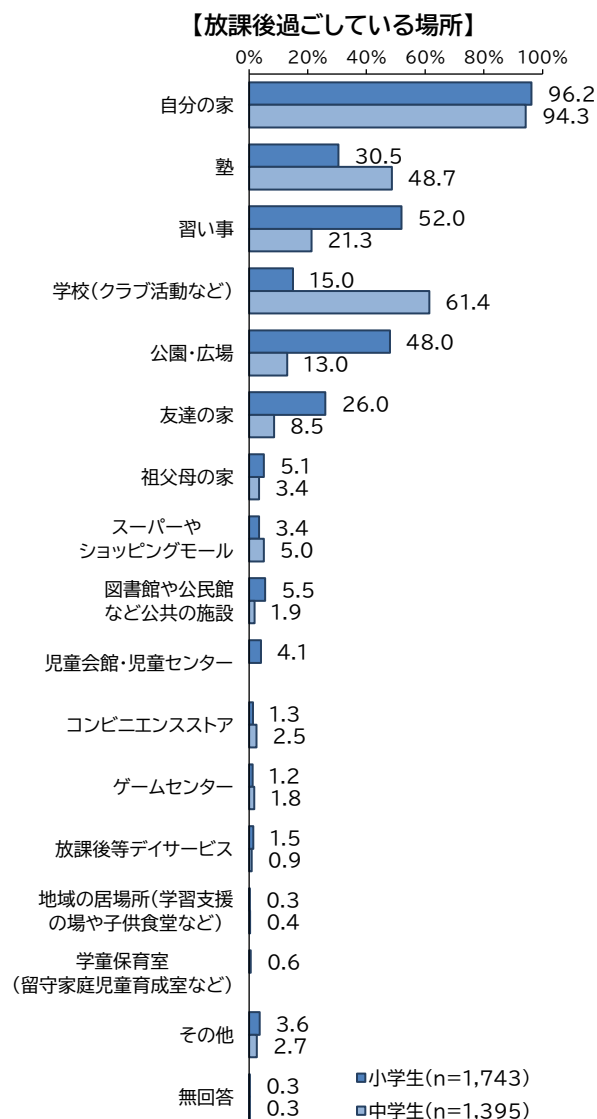
(子供)問 16 放課後過ごしている人

放課後過ごしている人を見ると、どちらの学年も「おうちの大人の人(親・祖父母・親せきなど)」が6～7割台で最も高く、次いで小学生は「学校の友達」、中学生は「クラブ活動の仲間」となっています。



(子供)問 17 放課後過ごしている場所

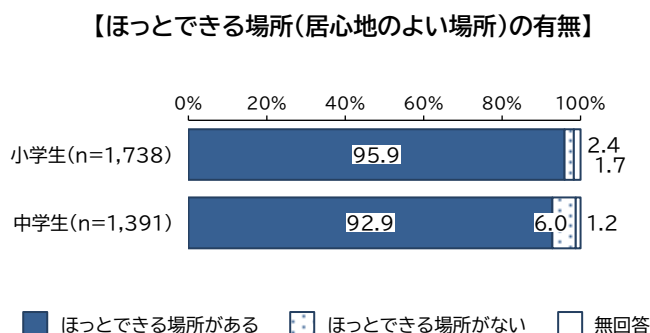
放課後過ごしている場所を見ると、どちらの学年も「自分の家」が9割以上で最も高く、次いで小学生は「習い事」が5割程度、中学生は「学校(クラブ活動など)」が6割程度となっています。



(子供)問 18

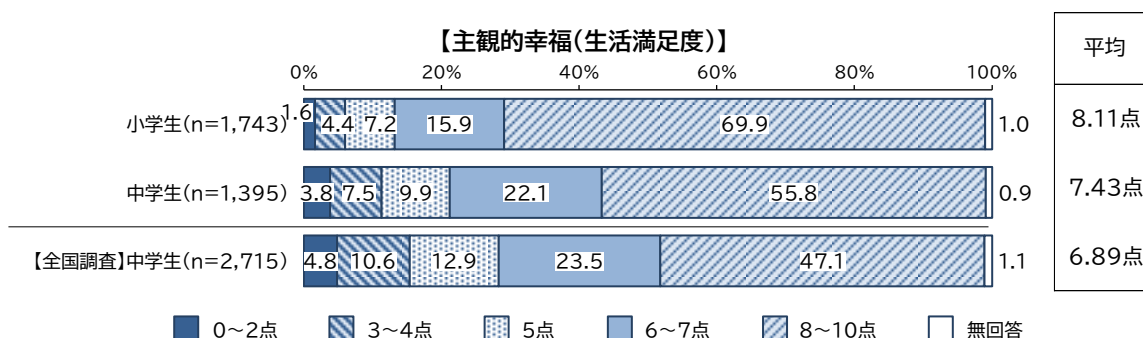
ほっとできる場所(居心地のよい場所)の有無

ほっとできる場所(居心地のよい場所)の有無を見ると、どちらの学年も「ほっとできる場所がある」が9割以上でとなっています。



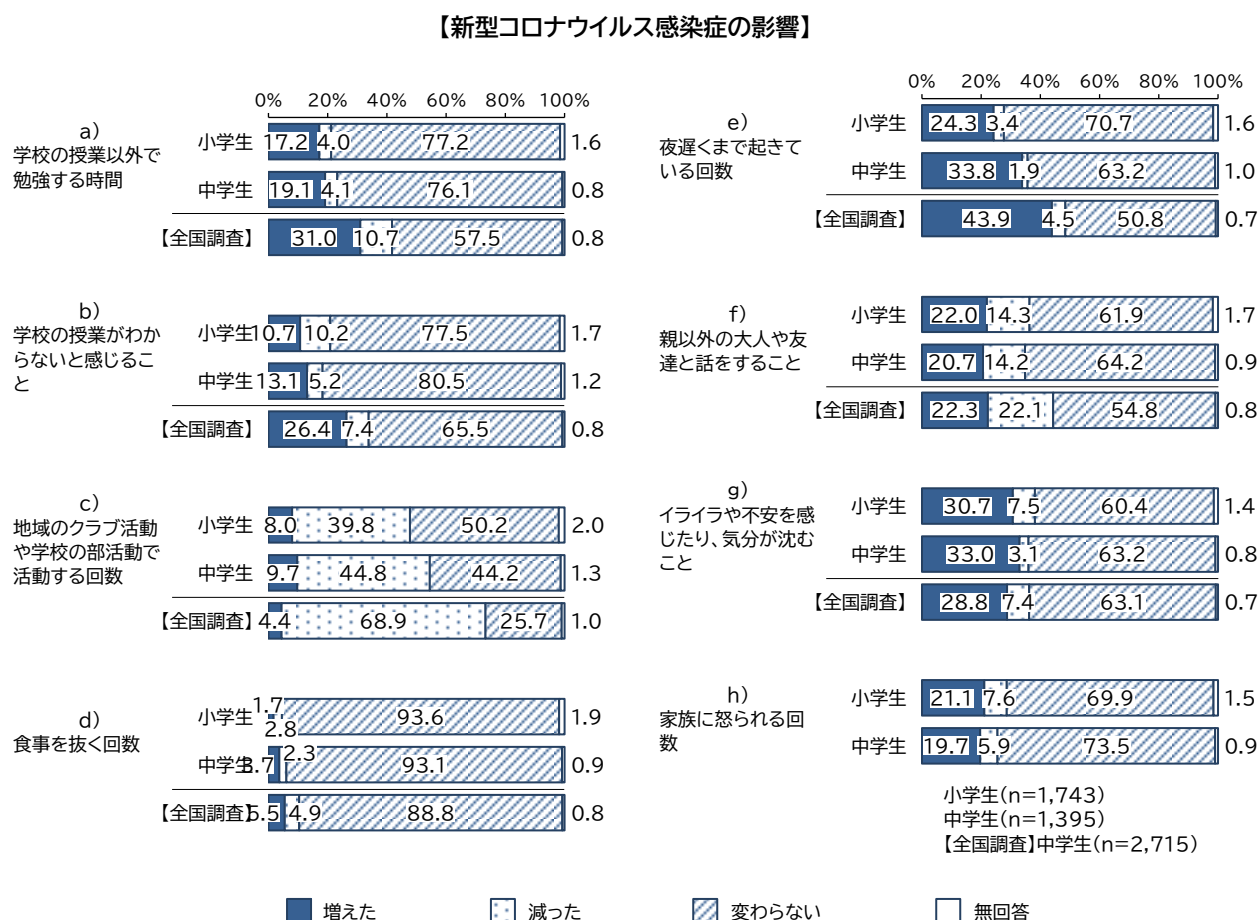
(子供)問 19 主観的幸福(生活満足度)

主観的幸福(生活満足度)を見ると、どちらの学年も「8～10 点」は小学生で 69.9%、中学生で 55.8%となっており、年齢が上がるほど全体的な満足度は低くなる傾向になっています。



(子供)問 20 新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症の影響を見ると、どちらの学年も「c) 地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数」で「減った」が4割前後、「g) イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」で「増えた」が3割台となっています。

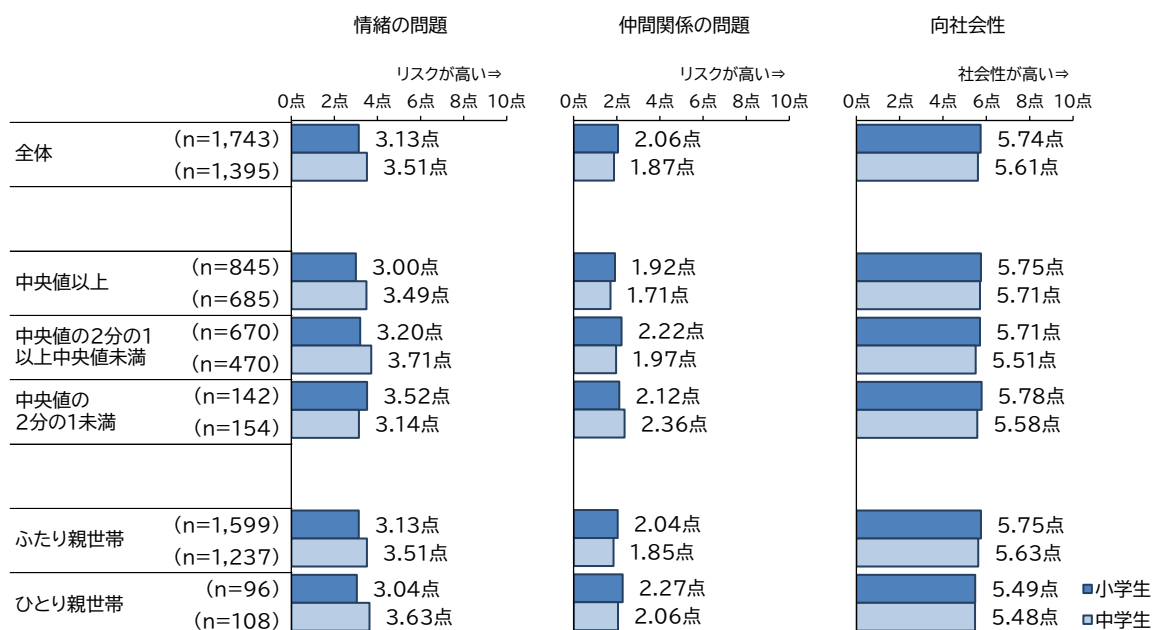


(子供)問 21 精神状態(SDQ)

今回の調査では、子供の心理的な状態を把握するために、SDQ(強さと困難さアンケート)の調査項目 25 項目のうち、情緒(不安や抑うつなど)の問題、仲間関係の問題、向社会性についての 15 項目を設定しています。

情緒の問題の平均点は小学生で 3.13 点、中学生で 3.51 点と中学生の方が高くなっています。仲間関係の問題の平均点は小学生で 2.06 点、中学生で 1.87 点と、小学生の方がやや高くなっています。向社会性の平均点は小学生で 5.74 点、中学生で 5.61 点と、中学生の方がわずかに高くなっています。

【精神状態(SDQ)】

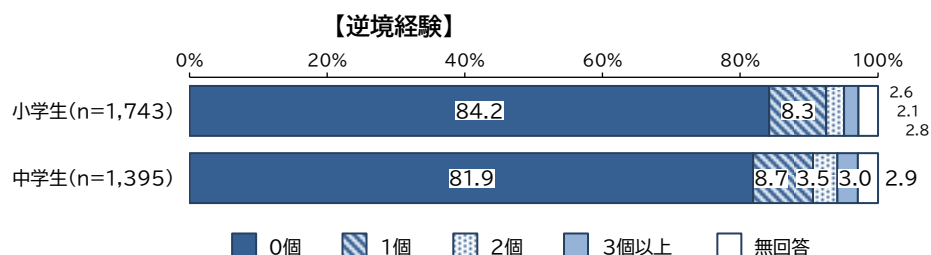


【精神状態(SDQ)に関する設問項目】

		小学生(n=1,743)				中学生(n=1,395)			
		あてはまらない	まああてはまる	あてはまる	無回答	あてはまらない	まああてはまる	あてはまる	無回答
情緒の問題	b) 私は、よく頭やお腹が痛くなったり、気持ちが悪くなったりする	61.2	23.2	14.9	0.7	51.5	27.2	20.7	0.5
	e) 私は、心配ごとが多く、いつも不安だ	63.9	23.2	12.2	0.7	53.3	29.8	16.0	0.9
	h) 私は、落ち込んで沈んでいたり、涙ぐんだりすることがよくある	56.7	26.2	16.2	0.9	57.5	24.3	17.3	0.9
	j) 私は、新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい	37.8	37.5	23.6	1.1	30.6	36.4	32.0	1.0
	o) 私は、こわがりで、すぐにおびえたりする	52.6	27.0	19.9	0.6	56.1	28.2	15.0	0.7
仲間関係の問題	d) 私は、たいてい一人でいる。だいたいいつも一人で遊ぶか、人と付き合うことを避ける	82.8	12.2	4.2	0.7	76.8	15.8	6.7	0.7
	g) 私は、仲の良い友達が少なくとも一人はいる	8.3	5.1	85.7	0.9	3.4	7.2	88.7	0.6
	i) 私は、同じくらい年齢の子供からは、だいたい好かれている	16.4	52.8	29.5	1.4	12.9	59.1	26.7	1.3
	l) 私は、他の子供から、いじめられたり、からかわれたりする	80.4	13.4	4.9	1.2	84.2	12.3	2.9	0.6
	n) 私は、他の子供たちより、大人というほうがうまくいく	57.0	31.0	10.7	1.3	68.2	21.8	8.5	1.4
向社会的性	a) 私は、他人に対して親切にしている。私は、他人の気持ちをよく考える	6.2	54.0	39.2	0.6	4.9	48.5	46.0	0.5
	c) 私は、他の子供たちと、よく分け合う(食べ物・ゲーム・ペンなど)	45.0	36.1	17.9	1.0	37.7	39.1	22.3	0.9
	f) 私は、だれかが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、すすんで助ける	11.5	54.2	33.6	0.7	13.9	58.4	27.0	0.7
	k) 私は、年下の子供たちに対してやさしくしている	5.5	37.2	56.1	1.3	7.5	39.1	52.3	1.0
	m) 私は、自分からすすんでよくお手伝いをする(親・先生・他の子供たちなど)	27.3	51.3	20.7	0.7	37.6	46.4	15.2	0.8

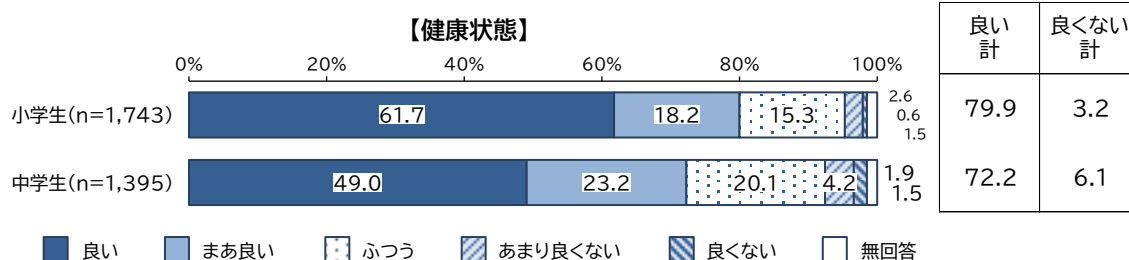
(子供)問 22 逆境経験

逆境経験(同居する大人からの暴言や暴力、ネグレクトなど)の7つの項目について、何個あてはまるかは、どちらの学年も「0 個」が8割台で最も高く、次いで「1 個」が1割弱となっています。



(子供)問 23 健康状態

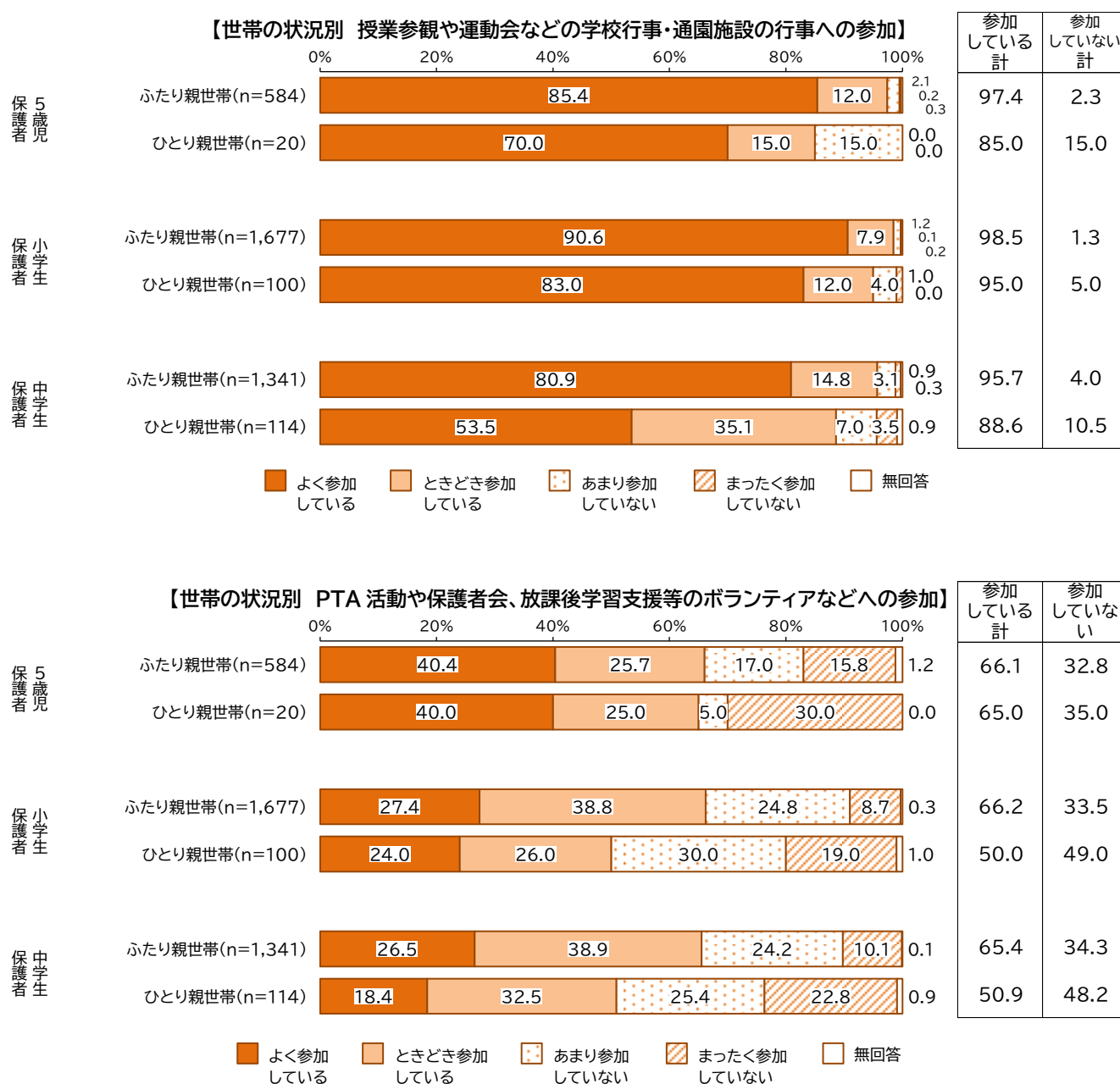
健康状態を見ると、どちらの学年も、『良い』(「良い」と「まあ良い」の合計)が7割台、「ふつう」が1～2割程度、『良くない』(「あまり良くない」と「良くない」の合計)が1割以下となっています。



(保護者)問 14 学校行事への参加

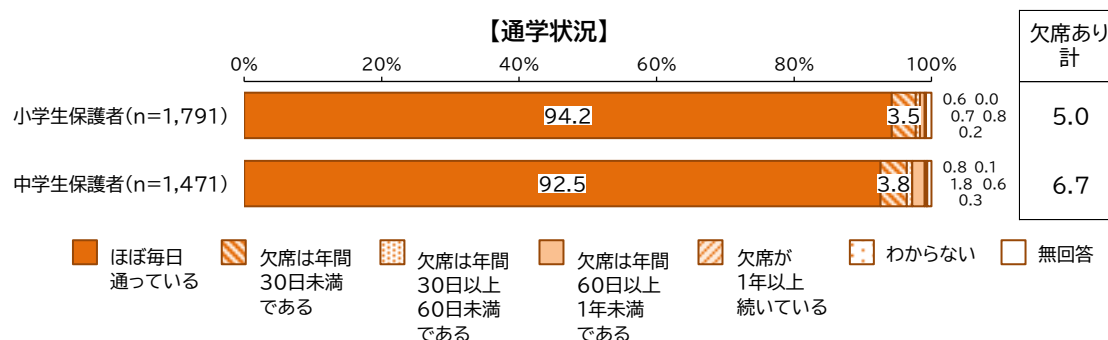
授業参観や運動会などの学校行事・通園施設の行事への参加を世帯の状況別に見ると、すべての保護者層で、ふたり親世帯の方がひとり親世帯よりも『参加している』の割合が高くなっており、小学生保護者のふたり親世帯で 98.5%と最も高くなっています。

PTA 活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加を世帯の状況別に見ると、小学生保護者と中学生保護者では、ふたり親世帯の方がひとり親世帯よりも『あてはまる』の割合が高くなっています。一方で、5歳児保護者は『あてはまる』の割合に差異はほとんど見られず、ひとり親世帯の「まったく参加していない」が 30.0%と、他の世帯層よりも高くなっています。



(小中学生保護者)問 17 通学状況

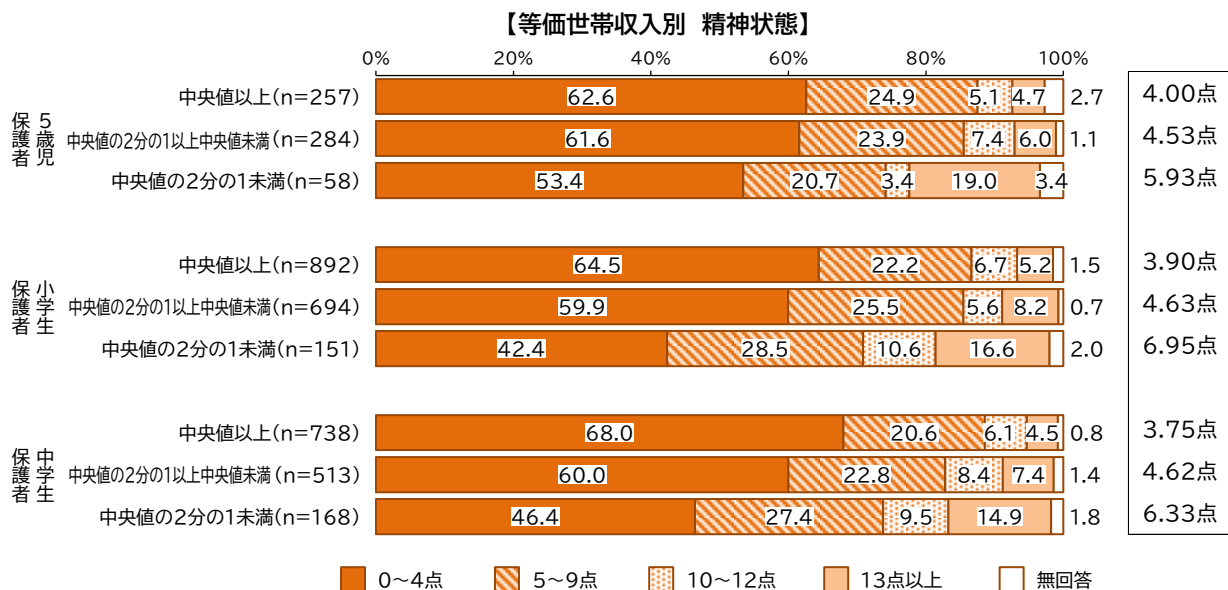
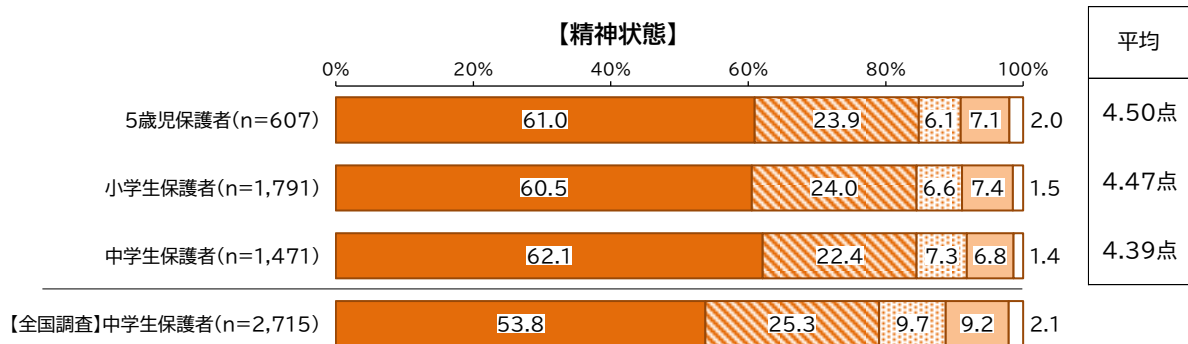
通学状況を見ると、すべての保護者層で「ほぼ毎日通っている」が9割以上で最も高くなっています。



(保護者)問 26/25 精神状態

今回の調査では、保護者の心理的な状態を把握するためにK6指標についての調査項目を設定しています。K6はうつ病や不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的とした指標で、「神経過敏に感じた」など6つの設問項目について「いつも」=4点、「たいてい」=3点、「ときどき」=2点、「少しだけ」=1点、「まったくない」=0点として点数化(合計0～24点)し、点数が高いほどストレスの度合いが高い可能性があります。

K6得点を見ると、すべての保護者層で「0～4点」が6割台、「5～9点」が2割台となっています。等価世帯収入別に見ると、すべての保護者層で、所得が低くなるにつれて得点が高くなり、小学生保護の中央値の2分の1未満の世帯で、平均得点が6.95点と最も高くなっています。

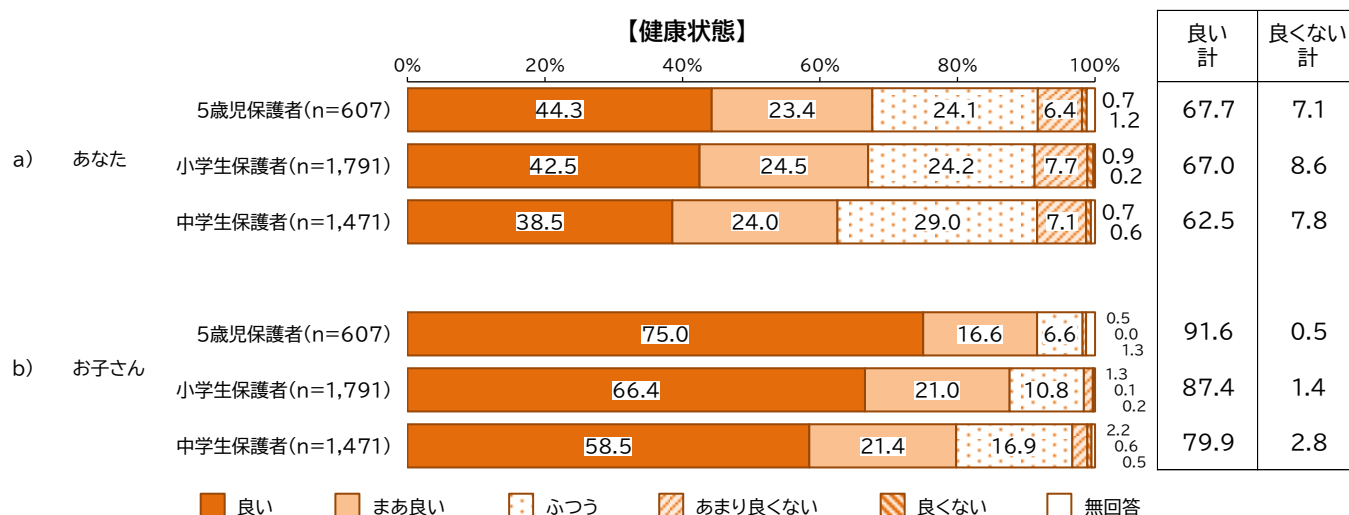


【精神状態に関する設問項目】

		回答者数 (n)	いつも (4点)	たいてい (3点)	ときどき (2点)	少しだけ (1点)	まったく (0点)	無回答	平均得点
a) 神経過敏に感じた	5歳児保護者	607	3.6	7.4	22.9	24.5	40.2	1.3	1.09 点
	小学生保護者	1,791	3.6	6.5	22.6	22.1	44.6	0.6	1.02 点
	中学生保護者	1,471	3.1	6.3	21.3	23.9	44.5	0.9	0.99 点
b) 絶望的だと感じた	5歳児保護者	607	0.5	2.3	8.2	12.7	74.6	1.6	0.39 点
	小学生保護者	1,791	1.3	2.5	9.3	11.5	74.9	0.6	0.43 点
	中学生保護者	1,471	1.3	1.8	8.6	11.9	75.7	0.7	0.40 点
c) そわそわ、落ち着かなく感じた	5歳児保護者	607	1.3	4.4	14.5	20.4	57.8	1.5	0.69 点
	小学生保護者	1,791	1.8	3.7	15.1	20.9	57.8	0.6	0.70 点
	中学生保護者	1,471	1.6	3.4	13.5	23.3	57.6	0.6	0.67 点
d) 気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた	5歳児保護者	607	1.8	3.3	16.6	23.4	53.5	1.3	0.75 点
	小学生保護者	1,791	2.2	4.7	15.9	24.0	52.7	0.6	0.79 点
	中学生保護者	1,471	2.2	3.6	15.8	24.8	52.7	0.8	0.77 点
e) 何をするのも面倒だと感じた	5歳児保護者	607	4.0	5.1	23.6	29.8	36.2	1.3	1.10 点
	小学生保護者	1,791	3.2	6.8	20.7	30.8	38.1	0.4	1.06 点
	中学生保護者	1,471	2.6	6.7	20.7	32.7	36.5	0.7	1.05 点
f) 自分は価値のない人間だと感じた	5歳児保護者	607	1.5	2.3	8.7	17.1	68.9	1.5	0.48 点
	小学生保護者	1,791	2.0	2.4	8.7	15.9	70.6	0.5	0.49 点
	中学生保護者	1,471	2.4	2.5	8.0	16.4	70.0	0.7	0.50 点

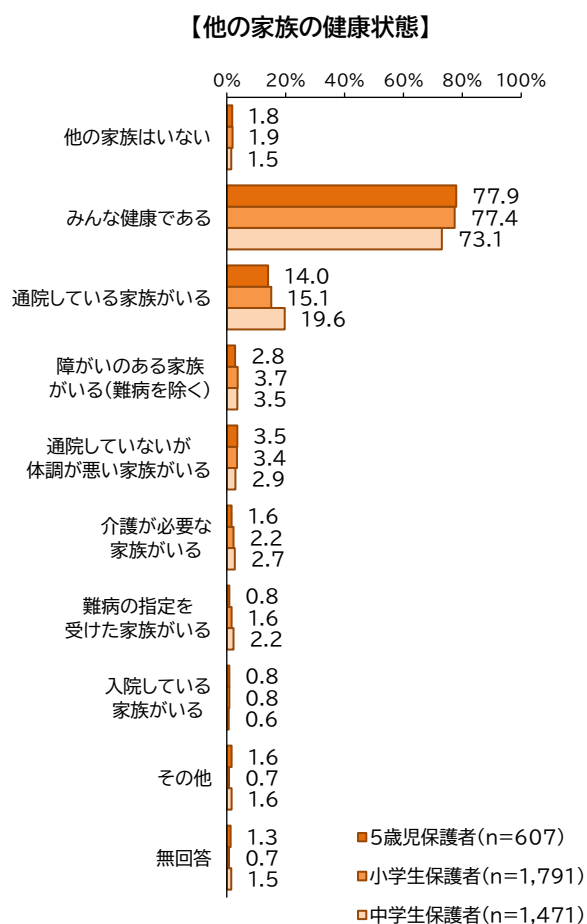
(保護者)問 27/26 健康状態

健康状態を見ると、すべての保護者層で『良い』(「良い」と「まあ良い」の合計)が「a) あなた」で6割台、「b) お子さん」で8～9割程度となっています。



(保護者)問 28/27 他の家族の健康状態

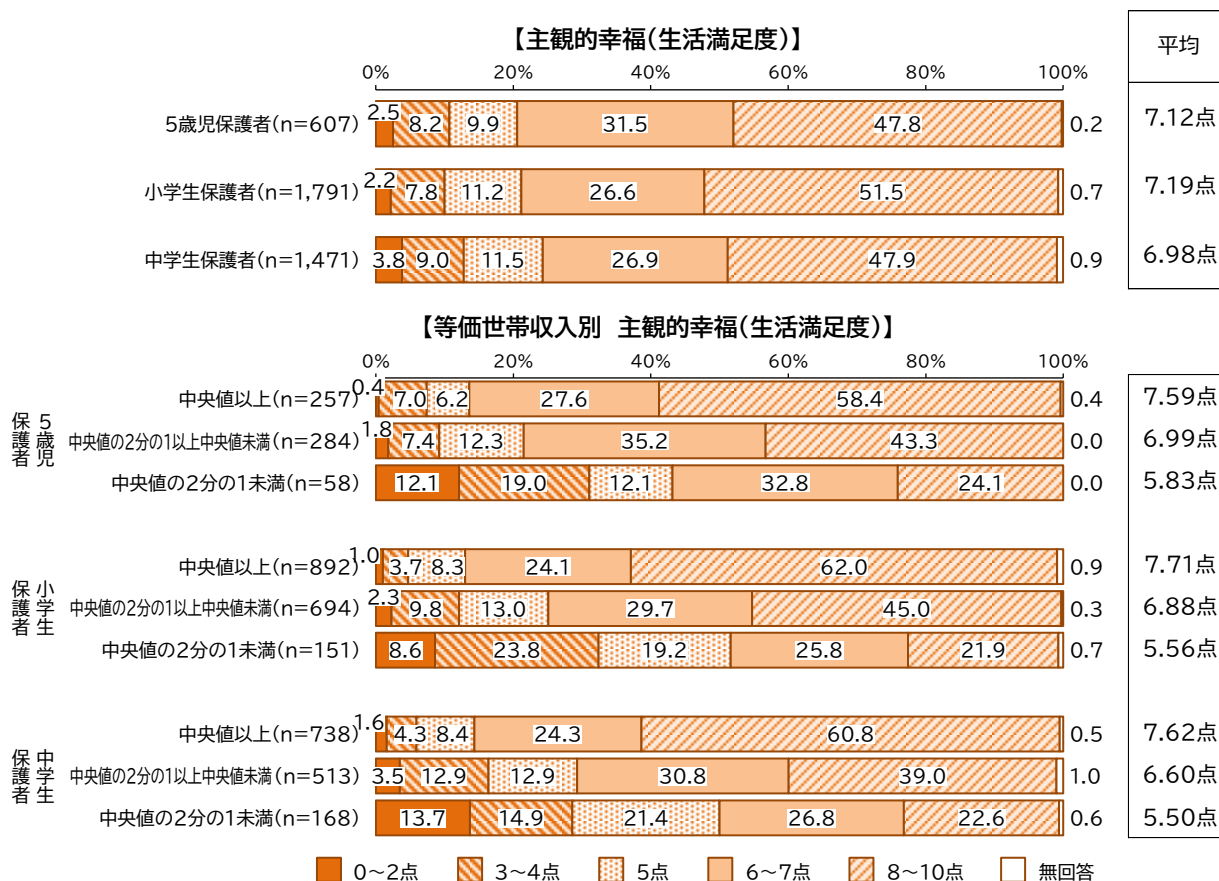
他の家族の健康状態を見ると、すべての保護者層で「みんな健康である」が7割台で最も高く、次いで「通院している家族がいる」が1割台となっています。



(保護者)問 29/28 主観的幸福(生活満足度)

主観的幸福(生活満足度)を見ると、すべての保護者層で「8～10 点」が5割前後で最も高く、次いで「6～7 点」が2～3割台となっています。

等価世帯収入別に見ると、すべての保護者層で、所得が高まるにつれて全体的に得点が高くなっており、中学生保護者の中央値以上の世帯で、平均得点が 7.62 点と最も高くなっています。

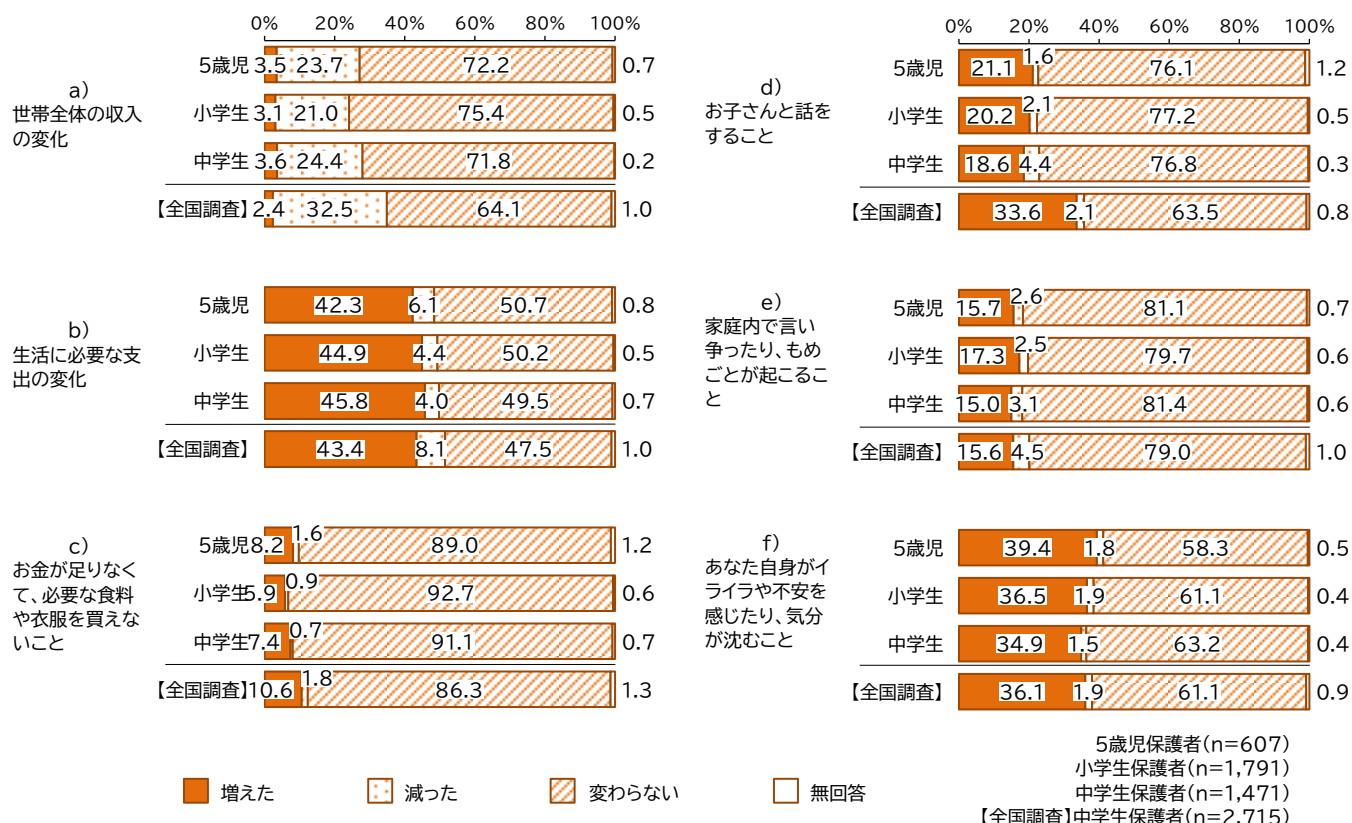


(保護者)問 30/29 新型コロナウイルス感染症の影響

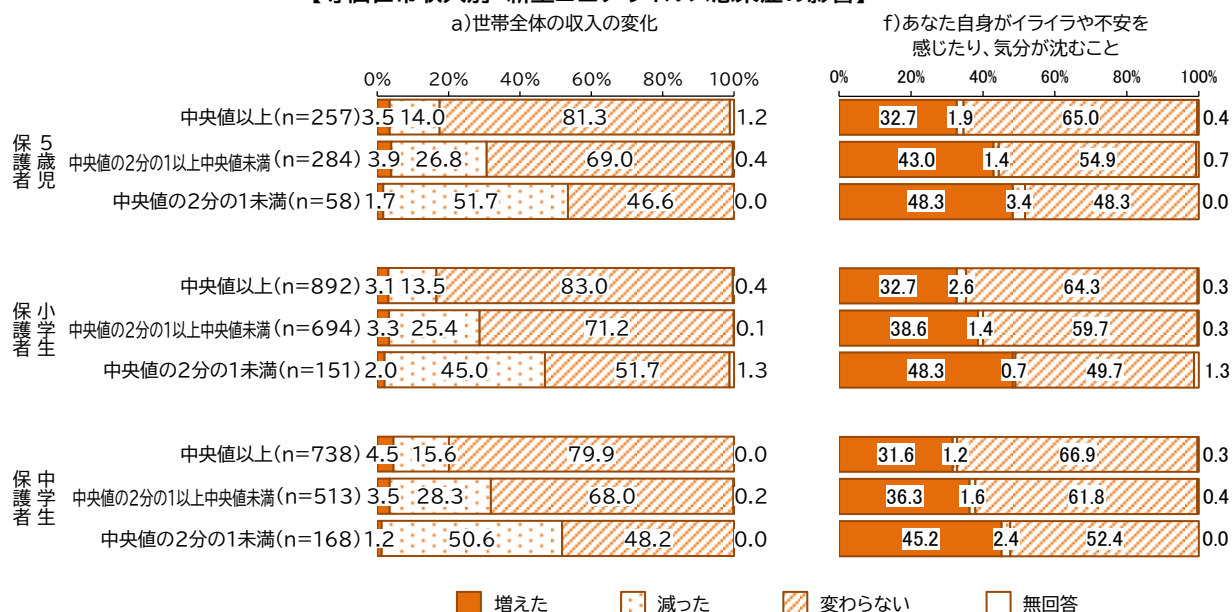
新型コロナウイルス感染症の影響を見ると、すべての保護者層で「a) 世帯全体の収入の変化」で「減った」が2割台、「b) 生活に必要な支出の変化」で「増えた」が4割台、「f) あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」で「増えた」が3割台となっています。

等価世帯収入別に見ると、すべての保護者層で、所得が低くなるにつれて「a) 世帯全体の収入の変化」は「減った」、「f) あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」は「増えた」の割合が高くなっています。

【新型コロナウイルス感染症の影響】



【等価世帯収入別 新型コロナウイルス感染症の影響】

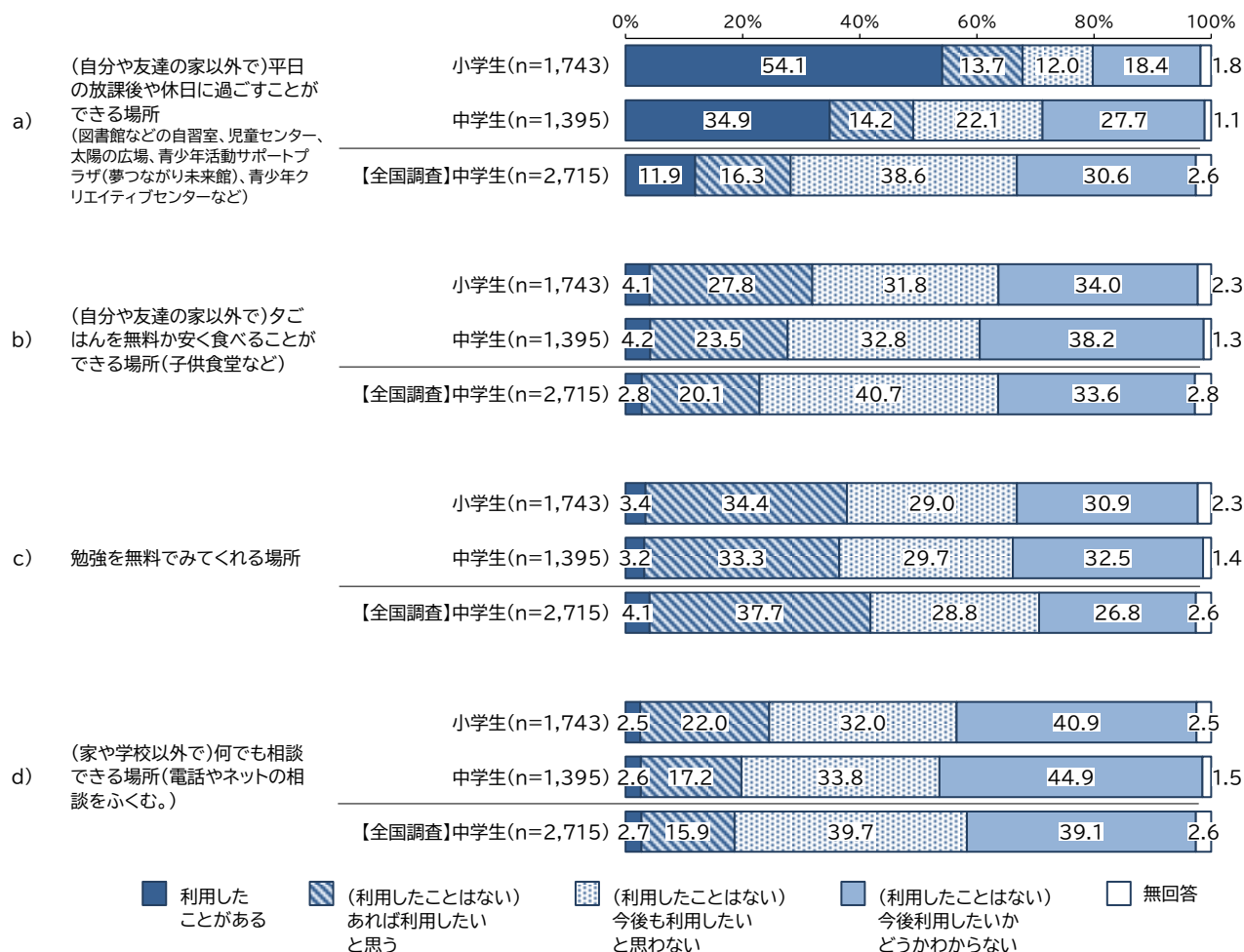


(5)相談・支援サービス

(子供)問 24 支援の利用状況

支援の利用状況をみると、「a）（自分や友達の家以外で）平日の放課後や休日に過ごすことができる場所（図書館などの自習室、児童センター、太陽の広場、青少年活動サポートプラザ（夢つながり未来館）、青少年クリエイティブセンターなど）」で「利用したことがある」が小学生で半数以上、中学生で3割台と高くなっています。それ以外の支援はどちらの学年も「利用したことがある」が、5%以下となっています。

【支援の利用状況】



(子供)問 25 支援の効果

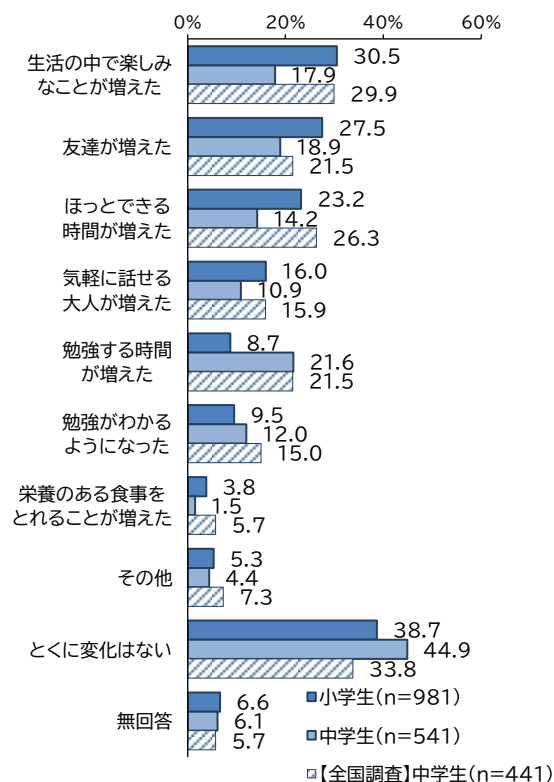
支援の効果を見ると、どちらの学年も「とくに変化はない」が3～4割台で最も高く、次いで小学生は「生活の中で楽しいことが増えた」、中学生は「勉強する時間が増えた」となっています。

(子供)問 26 困りごとや悩みごとの相談相手

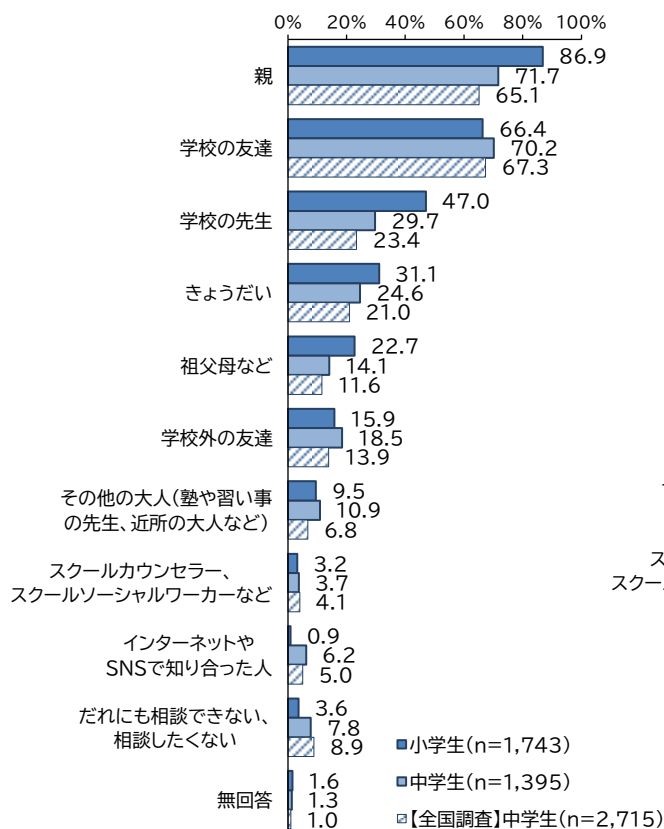
困りごとや悩みごとの相談相手を見ると、どちらの学年も「親」が7～8割台で最も高く、次いで「学校の友達」が6～7割程度、「学校の先生」が3～4割程度となっています。

等価世帯収入別に中学生の相談相手を見ると、中央値の2分の1未満では「学校の先生」「祖父母など」の割合が、他の世帯層よりもやや高くなっています。

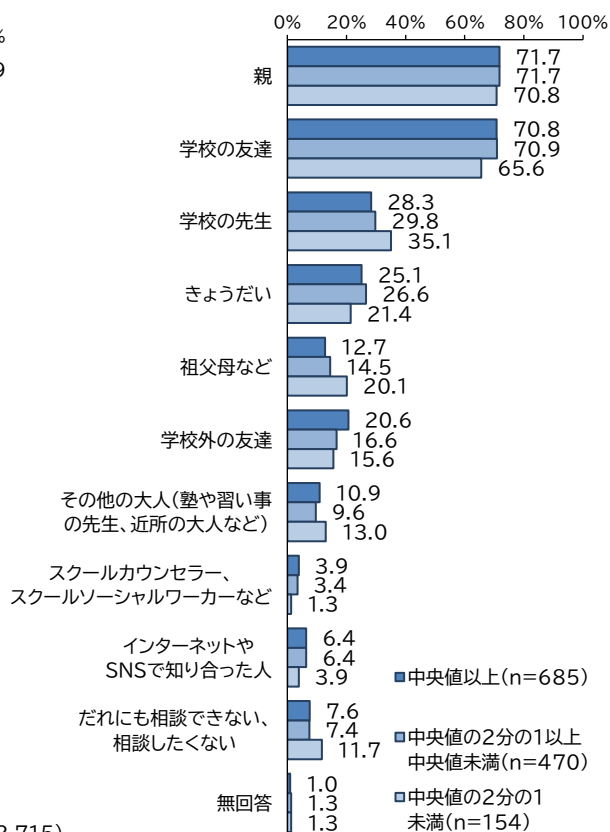
【支援の効果】



【困りごとや悩みごとの相談相手】



【等価世帯収入別 困りごとや悩みごとの相談相手(中学生)】

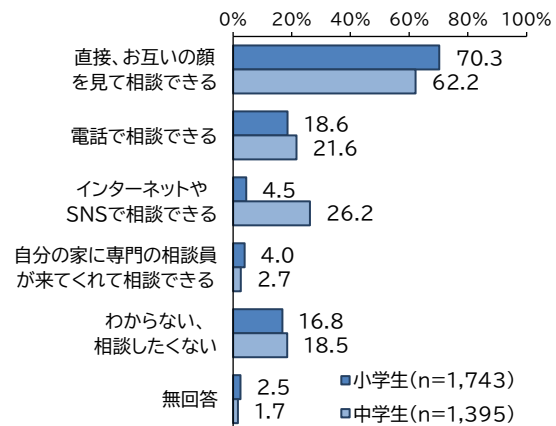


【利用しやすい困りごとや悩みごとの相談方法】

(子供)問 27

利用しやすい困りごとや悩みごとの相談方法

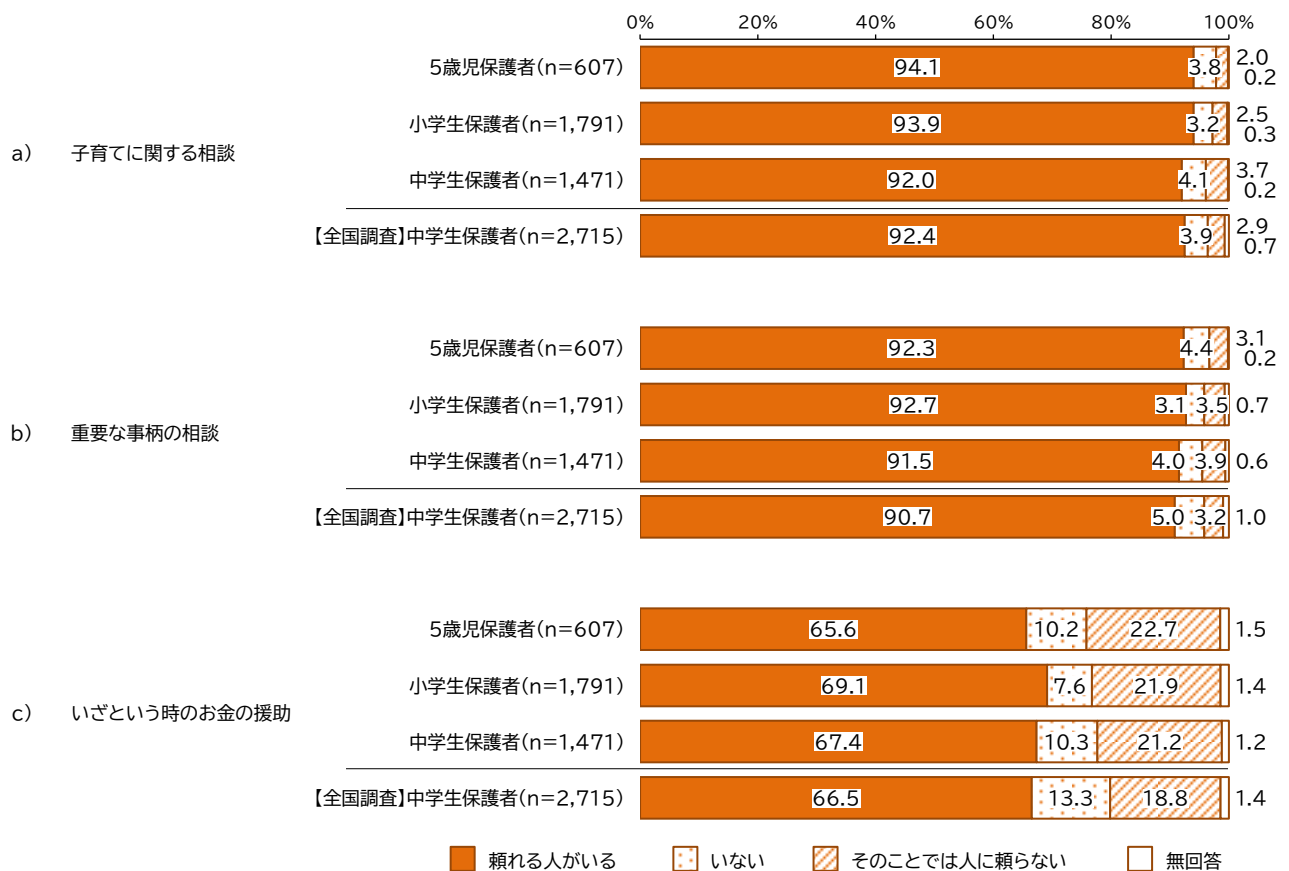
利用しやすい困りごとや悩みごとの相談方法を見ると、どちらの学年も「直接、お互いの顔を見て相談できる」が6～7割程度で最も高く、次いで小学生は「電話で相談できる」、中学生は「インターネットや SNS で相談できる」となっています。



(保護者)問 18/17 保護者の頼れる相手

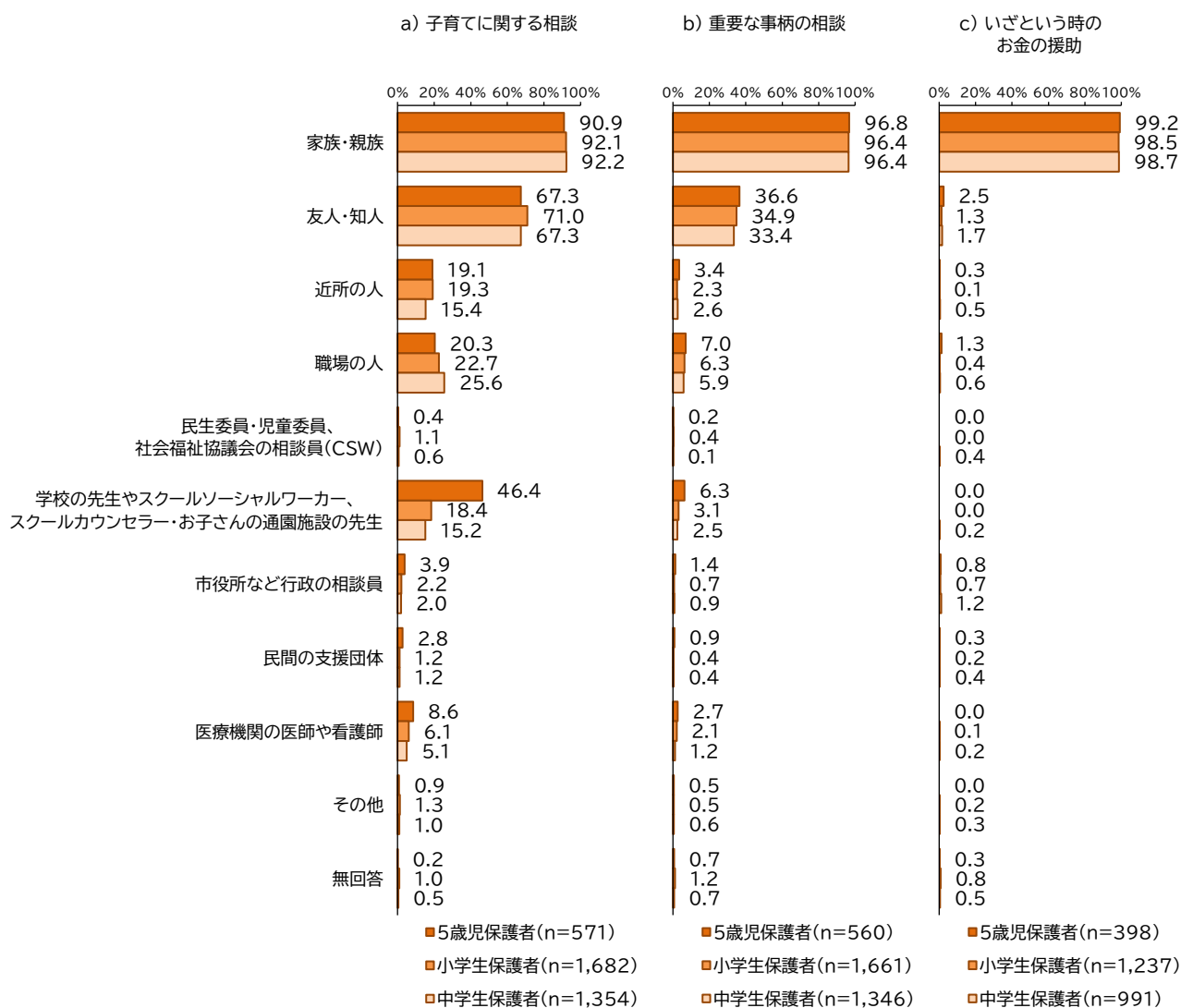
保護者の頼れる相手の有無を見ると、すべての保護者層で「頼れる人がいる」が最も高く、「a) 子育てに関する相談」と「b) 重要な事柄の相談」でそれぞれ9割以上、「c) いざという時のお金の援助」で6割台となっています。

【保護者の頼れる相手の有無】



保護者の頼れる相手を見ると、すべての相談分野のすべての保護者層で「家族・親族」が最も高く、それぞれ9割以上となっています。また、「a) 子育てに関する相談」で5歳児保護者の学校の先生やスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー・お子さんの通園施設の先生」が46.4%と特に高くなっています。

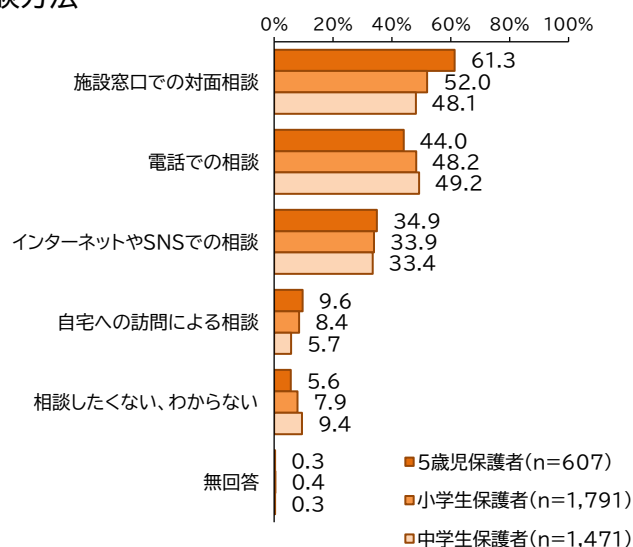
【保護者の頼れる相手】



【利用しやすい悩みごとの相談方法】

(保護者)問 19/18 利用しやすい悩みごとの相談方法

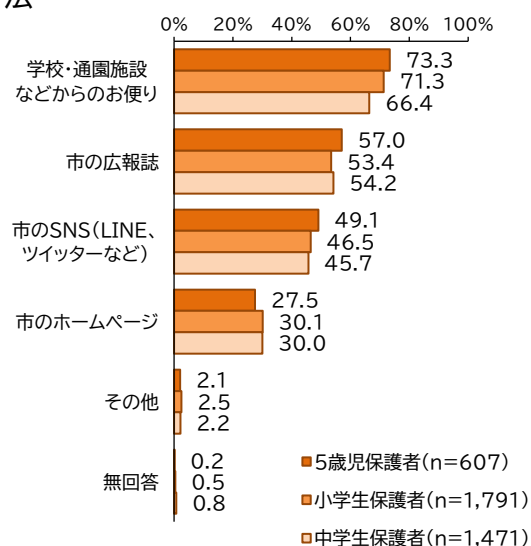
利用しやすい悩みごとの相談方法を見ると、5歳児保護者と小学生保護者は「施設窓口での対面相談」が5～6割台、中学生保護者は「電話での相談」が約5割で最も高くなっています。



【福祉制度や支援策の情報を受け取る方法】

(保護者)問 32 福祉制度や支援策の情報を受け取る方法

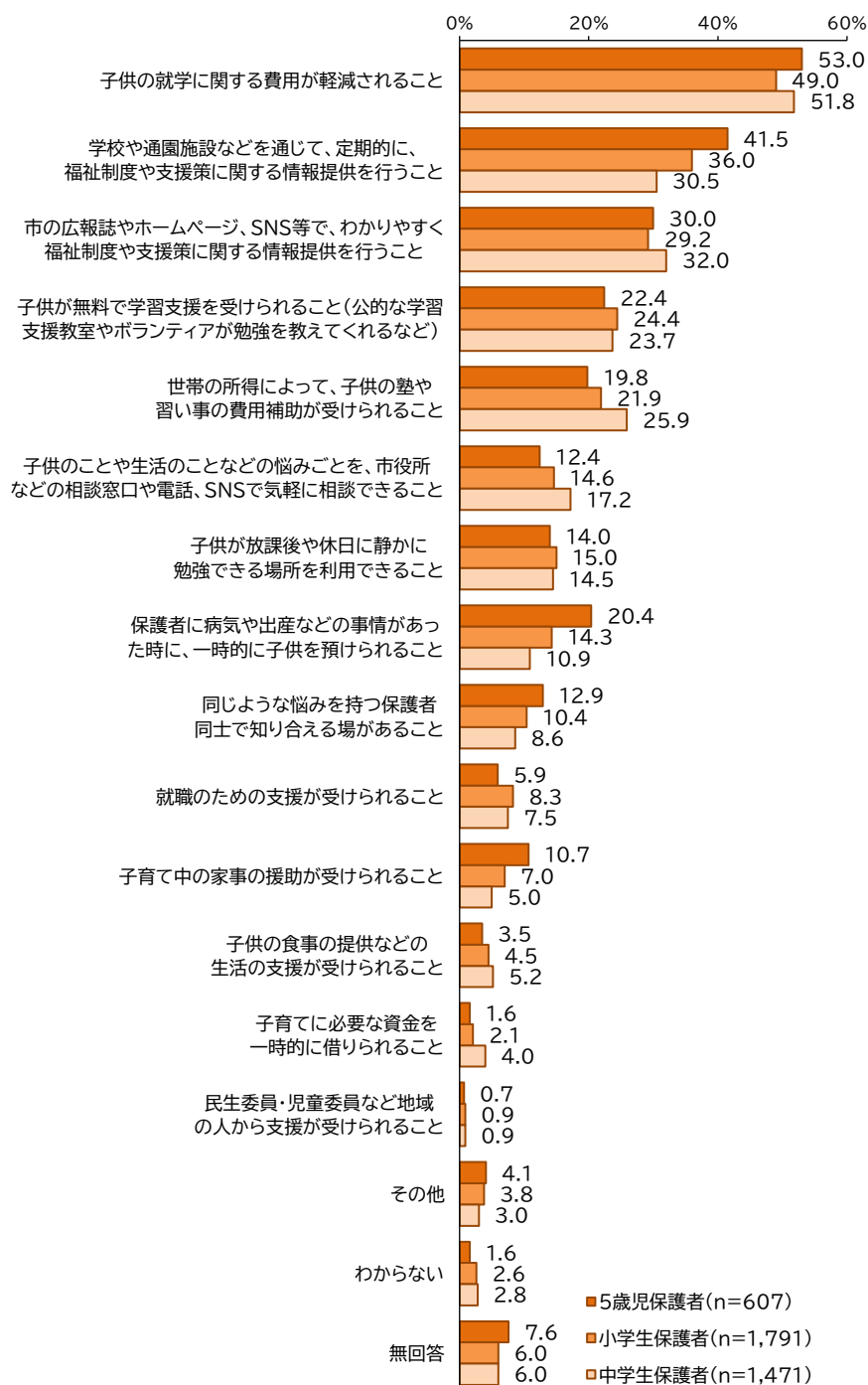
福祉制度や支援策の情報を受け取る方法を見ると、すべての保護者層で「学校・通園施設などからのお便り」が6～7割程度で最も高く、次いで「市の広報誌」が5割台、「市のSNS(LINE、ツイッターなど)」が4割台、「市のホームページ」が3割程度となっています。



(保護者)問 33 必要な支援施策

必要な支援施策を見ると、すべての保護者層で「子供の就学に関する費用が軽減されること」が5割前後と最も高く、次いで5歳児保護者と小学生保護者は「学校や通園施設などを通じて、定期的に、福祉制度や支援策に関する情報提供を行うこと」(5歳児保護者:41.5%、小学生保護者:36.0%)、中学生保護者は「市の広報誌やホームページ、SNS等で、わかりやすく福祉制度や支援策に関する情報提供を行うこと」(32.0%)が高くなっています。

【必要な支援施策】



等価世帯収入別に見ると、すべての保護者層の中央値の50%未満の世帯で、「世帯の所得によって、子供の塾や習い事の費用補助が受けられること」が4～5程度と特に高くなっており、中学生保護者で51.2%となっています。

【等価世帯収入別 必要な支援施策】

